

山梨県指定史跡

甲府城跡 VI

1996. 3

山梨県教育委員会  
山梨県土木部

山梨県指定史跡

甲府城跡 VI

1996. 3

山梨県教育委員会  
山梨県土木部

## 序

甲府城は、舞鶴城公園として明治以後広く県民に親しまれている近世城郭跡であります。山梨県内の唯一の石垣を有する城郭として昭和42年に県指定史跡となりました。また1990年より10年計画で山梨県土木部によって石垣修復を中心とした都市公園整備事業が着手されております。事業に先立った発掘調査は、当埋蔵文化財センターが1990年より10年計画で実施しており、築城より凡そ400年を経過した城内から、数々の貴重な遺構や遺物を検出してまいりました。また、考古学的な手法以外に古地図と古文書を加えた様々な角度からの検討を加え、甲府城の役割や甲斐国と中央との歴史的関係を明らかにする試みも続けております。

今年度行った発掘調査は、鍛冶曲輪東側、天守曲輪西側、稻荷曲輪櫓台周辺を中心として調査し、鍛冶曲輪では石組み井戸、天守曲輪では地中石垣や石組み井戸などを検出いたしました。また織豊期に成立発展した穴太積み技術については、その石材調査を行うことで、幻となったその技法により近づく復元を行うための調査も続けております。特に本年度は、岩手県盛岡城跡・群馬県太田金山城跡・長野県松代城跡・東京都八王子城跡の調査担当者を甲府に招き、整備の考え方と石垣の調査方法について調査検討委員会で発表していただきました。

末筆ながら、本調査・報告のためにご尽力くださいました甲府城調査検討委員会の諸先生方をはじめ、現場でご助言くださいました方々や県土木部都市整備課、甲府土木事務所、文化財保存計画協会、工事関係者、それに調査に従事くださいました方々に厚く御礼申し上げます。

1996年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 大塚 初重

## 例　　言

- 1、本報告書は1995年度に実施した都市公園である舞鶴城公園整備事業（山梨県指定史跡甲府城跡の整備事業）に伴う発掘調査及び石垣修復工事の概要をまとめたものである。
- 2、発掘調査は山梨県土木部から山梨県教育委員会が委託され、山梨県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3、整備事業は甲府土木事務所都市整備課が担当し、設計監理などは復元建物を文化財建造物保存技術協会、石垣復元を（株）文化財保存計画協会に委託した。
- 4、甲府城の江戸時代の正式な名称は甲斐府中城であるが、錦城・舞鶴城・甲陽城・赤石城などの別称があった。本書では史跡名称である甲府城を採用した。都市公園の指定名称は舞鶴城公園である。
- 5、本年度の調査では、次のかたがたに貴重なご助言を賜った。記して感謝の意を表したい。

吉村 稔・上野 晴朗・宮島 秀夫・田中 哲雄・中村 博司・土山 公仁・木戸 雅寿  
森島 康雄・宮武 正澄・前島 卓・新藤 康夫・室野 秀文・宮田 毅・塙田 順正  
大島 憲一・鈴木 稔・河西 学・畠 大介・朴 永周
- 6、本年度の調査では、次の機関の方々にご協力ををおいた。記して感謝の意を表したい。

彦根市教育委員会・大阪市教育委員会・財団法人大阪市文化財協会  
財団法人帝京大学山梨文化財研究所・山梨県土木部都市整備課・甲府土木事務所  
山梨県立青少年科学センター・甲府市教育委員会文化芸術課・株式会社文化財保存計画協会  
株式会社長田組土木・株式会社早野組・株式会社斎藤建設・株式会社大同建設工業  
株式会社藤造園建設
- 7、本報告書の作成に当たり貴重な資料を次の方々に提供していただいた。記して感謝の意を表したい。

財団法人郡山城史跡柳沢文庫保存会・坂田 邦夫・露木 弘光
- 8、本年度の調査担当者及び参加者は次のとおりである。

調査担当者　八巻與志夫・柏木 秀俊  
海外研修生　チム・ソカン・ダラー（カンボジア）  
調査員　弦間 千鶴  
調査作業員・整理員（順不同）

村田 勝利・保坂 甲次・森下 豊・須賀 富雄・保坂 瞳・小林 早苗・保坂太美保  
守屋 敏子・弦間 千鶴・堀江 淑美・土屋 道子・柴田 珠麗・清水 崇宏・内田 太郎  
遠藤 洋和・酒向 裕一・松田 拓也・鹿住 紀子・末木 義光・中田 芳仁・渡辺 旭光  
内田 元三・田辺 真市・長井 高志・長尾 圭史・山下 和哉・志村 悟・工藤 忠誠  
小島 一洋・福葉 慶太・柏木まつ江・馬場 和江・北島 宏一・百瀬 潤一・綱島 勝利  
岡村 昌昭・天川 和子・久保田篤子・金森 保雄・溝口 豊・立澤 恵介・塙田 知春  
岩田 潤也・篠原 朋亮・林 一隆・緑川 大輔・都築 正道・渡辺 雅仁・若尾 修也  
石原 史・荒木 正命・垣内 哲郎・内田 慶太・広瀬 晶子・谷 勉・吉野 剛二  
松土 岳志・福地 功平・長田 勝・浅倉 和丸・斎藤 哲也・有野 浩司・柳本 陽子  
神沢 正孝・羽中田 弘・矢島 茂
- 9、本年度の石垣修復工事に直接携わった組織は、株式会社藤造園建設・有限会社金井農場である。
- 10、本報告書にかかる出土品及び記録図面類・写真等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
- 11、本報告書のレイアウト、図版は弦間千鶴・柏木まつ江が、原稿は第1章を柏木まつ江、その他は八巻與志夫が執筆した。

# 目 次

第1章 地理的・歴史的概要 .....	1
第2章 調査の経過 .....	3
第1節 今年度の調査の方法と経過 .....	3
第2節 調査検討委員会の経過 .....	5
第3章 発掘調査 .....	11
第1節 鍛冶曲輪 .....	11
第2節 天守曲輪 .....	17
第3節 糸荷曲輪 .....	28
第4節 内松陰門・山ノ井門 .....	30
第5節 銅門下石段 .....	32
第4章 石材調査 .....	34
第5章 出土遺物 .....	49
第6章 石垣調査検討委員会資料 .....	58

# 第1章 歴史的・地理的概要

甲府城は、1968年（昭和43）に県指定史跡として公示された近世城郭跡である。愛宕山に隣接した小高い独立丘を利用して築城された城城は、東西450m、南北540mを測り、甲府盆地を広く見渡すことができる。本丸・稲荷曲輪・鐵治曲輪・数寄屋曲輪と江戸期の凡そ3分の1の規模に縮小された内郭も、立ち上がる15m程の高石垣に囲まれ、当時の最先端土木技術を今に伝えている。

甲府城の地は一条小山と称され、建長年中一条忠頼の居館が置かれていた。館の主忠頼は源頼朝の義兵の時平家の軍勢を追討した武田太郎信義の嫡男である。忠頼は寿永三年右大将頼朝の疑いに触れて謀殺され、夫人は篠落して館を尼寺とするが、その後武田六郎信長が一条氏を興し、その孫時信が甲斐守護職となり正和元年他阿真教に帰依し一蓮寺の開基となる。踊り念仏として熱狂的に広まった時宗の一蓮寺は文安年中には客殿も造られ、武田氏の時代はその庇護の元に名刹として君臨した。また門前には賑やかな市が開かれるなど、一条荘の中心として栄えたことが想定されている。

戦国時代も終焉を迎えるとしていた天正10年3月、織田信長は徳川家康軍を伴い武田氏を田野の地に滅亡させた。しかし天下統一へ前進したはずの信長も同年5月には本能寺において明智光秀の刃に倒れ、武田氏滅亡の同年4月から河内領を除く甲斐と信濃諏訪郡の支配を命ぜられた織田家臣の河尻秀隆も僅か1ヶ月の統治の末に甲斐民衆により慘殺された。これを機に甲斐は国人層が活発な動きをみせ、北条氏も素早く真田氏を傘下に収めて甲斐獲得を窺い、徳川方も旧武田遺臣の懐柔策に走るなど、同年8月には双方による甲斐・信濃を合わせた武田旧領の国取合戦に突入した（天正壬午の乱）。しかし穴山衆・武川衆・津金衆などの地域武士団をはじめ、甲斐民衆の心服を得ることに成功した家康は勝利者として自領に甲斐・信濃を加えた5カ国の支配権を獲得した。その後の家康は積極的な甲斐統治に着手したが、それは概ね武田氏の治世を踏襲したものであった。武川衆はその後家康に従い小牧・長久手の戦いなどに参加し成功をたてている。

天正11年以降甲斐は家康の家臣平岩親吉の支配が行われ、経済的にも軍事的にも要衝な地として一蓮寺の移転計画と其の地での甲府城の縛張りがされたとする。他方信長の後継者として関白職を手に天下統一事業を推し進める豊臣秀吉は同18年7月後北条氏を総勢21万ともいう大兵力をもって滅ぼし事實上の霸者として家康を関八州へ移封を命じた。最大のライバルを関東に閉じ込める政策について『徳川実紀』では、「秀吉此度北条を攻滅し、その所領悉く君に進められてことは快活大度の挙動に似たりと雖も其實は當家年頃の御徳に心服せし駿・遠・參・甲・信の五国を奪う詐謀なる事疑ひなし、其故は関東八州と雖も房州に里見、上州に佐野、下野に宇都宮、常陸に佐竹あれば八州の内御領となるは僅か四州なり」かの駿遠參甲信の五カ国は年頃人民服せし御領なれば是を秀吉の手に入、甲州は尤要地なれば加藤遠江守光泰を置、後に浅野弾正少弼長政を置（中略）皆秀吉腹心の者共を要地に据え置て。関八州の咽喉を押えて少しも身を動かし手を出さしめじと謀りしのみならず、又関東は年久しく北条に帰服せし地なれば、新たに主をかへば、必ず一揆蜂起すべし土地、不案内にて一揆を征せんには必敗べきなり、其敗に乘じてはからいざまあべしとの秀吉の胸中明らかにしるべきなり」と不満を記している。

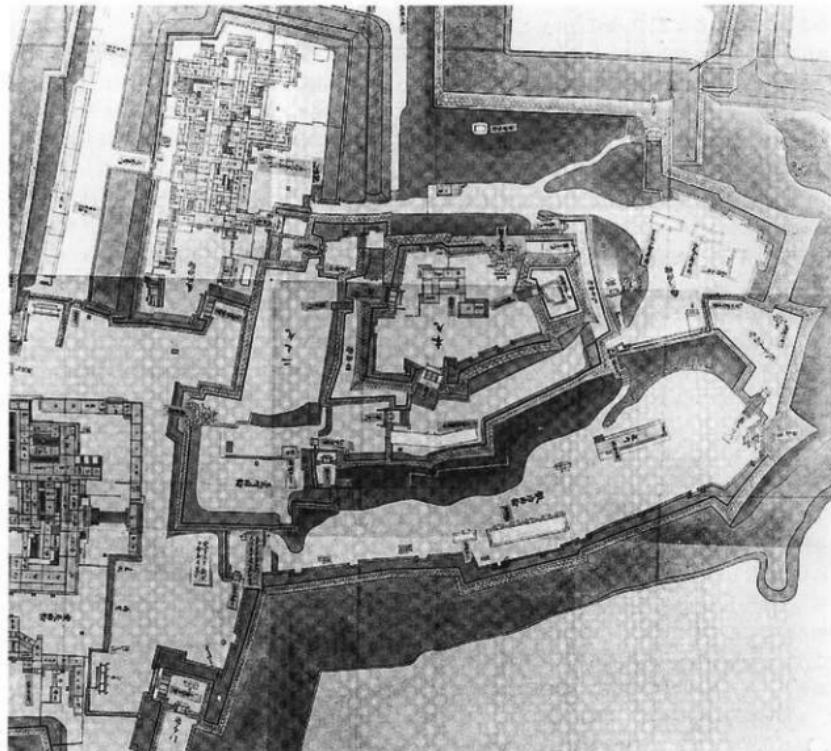
こうしたなか甲府城の築城は小田原の陣直後から動き出した。羽柴少将秀勝が、次で加藤遠江守光泰が引き継ぎ、一蓮寺を倉田村（現在の太田町）に移転し「其の國ふしん土手ひかしの丸石かき出来候や、此表之事、上様御存分に申付候て、帰国仕城をやかて見可申候」（大洲加藤文書）と石垣・作事普請は持つていった。築城は文禄2年より甲斐を統治した浅野弾正長政・幸長の統治に至り慶長5年の和歌山移封までに一応の完成を見、甲府城は秀吉による家康の包囲網として要の地に相応しい金箔瓦をその象徴とした。しかし関



第1図 甲府城跡位置図 (1/25000)

が原の戦い以降の甲府城は再び城代となった平岩氏の下で豊臣色の払拭のための改修がされ、尾張藩祖の徳川義直が慶長12年まで、その後は忠長が高崎へ蟄居されるまで受封したがそれぞれ城主不在の城であったが、後綱重・徳川6代將軍となる綱豊の甲府藩時代の城改修の後は柳沢吉保・吉里を迎えて木家所蔵甲府城絵図(第2図)が屋作を威勢そのままに創出していて、華やいだ時代を語りかけている。約20年間続いた繁栄も柳沢氏の郡山移封後の城は幕府の直轄地として甲府勘番の元に委ねられ、幕末には再び城代が置かれ要の地を取り戻したかに見えたが、その荒廃は徳川幕府を写しと/or>っていた。

明治維新を経て同9年には鍛冶曲輪に葡萄酒醸造試験場が建設されるなど城は山梨県の殖産興業に大きく貢献する場となり、更には楽屋曲輪に甲府中学が、清水曲輪には中央線の甲府駅が、甲府中学の跡地は県庁が建設されるなど、県民の為の姿に変わっていった。このように甲府城は山梨県の近代化の中心地として政治・経済的中心的な役割を担い、更には大正年間、村松甚蔵氏の寄付により県民の公園として県有地となっている。



第2図 甲府城内屋作図(露木家蔵)

## 第2章 調査の経過

### 第1節 今年度の発掘調査の経過と概要

#### 1 錫冶曲輪調査

恩賜林記念館の東にある広場で、江戸時代には錫冶曲輪を呼称されていた場所である。この場所を天守曲輪5番～11番石垣解体工事のストックヤードとして使用する計画が提示されたため、5月に予告看板を設置して6月より表土剥ぎに着手した。共用されている公園内の発掘調査であるため、調査区を仮設フェンスで囲んで調査に着手した。

江戸中期の坂田家所蔵絵図に、曲輪東側の中央に井戸が、中央より北側の斜面寄りには勘定所が描かれている。また、宝永2年(1705)の絵図(柳沢文庫所蔵)ではその場所には番所が描かれている。このため、礎石や柱穴などの建物の痕跡を検出することを主な目的としたが、表土下30cm付近では、明治以降の柱穴及び陶磁器破片を中心とする遺物が検出された。その下部では、性格不明の礎石列や柱穴が確認されたが、江戸時代の甲府城に伴う明確な遺構の検出は、石組井戸1基である。

この周辺での江戸時代の瓦の出土量は少なく、出土遺物が明治期から昭和までに限られると言ってもよい状況であった。このことは、江戸時代の生活面が削平されていることを意味するものと考え、9月には調査を終了した。また、明治39年に開催された一府九県勧業博覧会の陳列館跡も検出している。

#### 2 松陰門・山ノ井門周辺調査

内松陰門とは、星形曲輪から山ノ井曲輪へ通じる門で、星形曲輪側の門を外松陰門、山の井曲輪側を内松陰門と呼称している。今回の調査は、内松陰門の北側石垣修復工事に先立つ、昨年度から引き続いて5月までの調査である。山ノ井門北側の調査では、門の礎石及び周辺施設の柱穴の検出に努めた。礎石は検出できなかったが、門の柱穴及び門と直行する石垣を検出した。内松陰門の調査では、門の礎石と柱穴を検出した。

#### 3 稲荷櫓台調査

稲荷曲輪北東の隅に位置する櫓台で、明治初年まで櫓が建てられていた場所である。石垣修復工事に先立って1月から3月まで発掘調査を実施した。櫓の礎石を検出することと、根石確認に努めた。礎石は櫓台西側に南北6.5m、東西6.5mの範囲で検出することができた。また、地鎮具である輪宝が櫓の礎石の南西の角より1点、北西の角に近いところから1点が出土した。(報告は次年度の予定である)

#### 4 銅門石段調査

11月から12月までの銅門北西下の石段の除去後の調査で、石段の下から古い石段の整地跡を確認し、さらに柵門の柱穴を検出した。

#### 5 天守曲輪調査

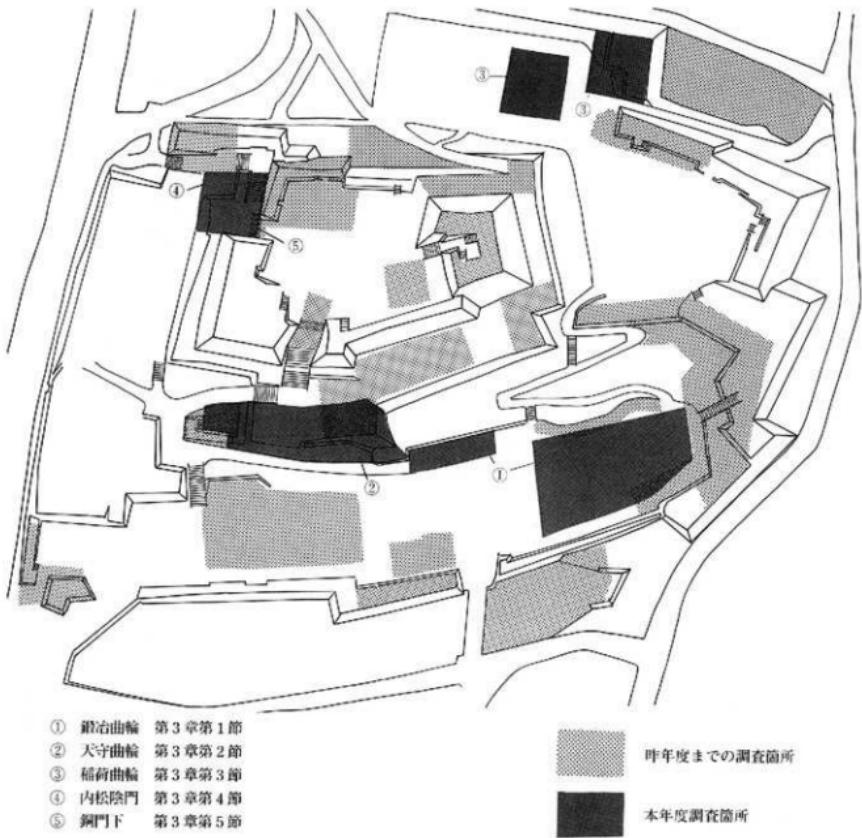
天守曲輪の調査は解体工事と並行して、10月から翌年の2月まで実施した。

売店跡の調査では、絵図に描かれている井戸と武具庫の礎石を検出するために、また昨年度の調査で出土した地中石垣の範囲、さらには石垣の裏盛土の状況を把握することを目的とした。

武具庫の礎石などは確認できなかったが、井戸は、地表下6メートルで残存部を検出し、底までの調査を行った。深さは9.5m、直径は1.7mであった。中からは金箔鬼瓦が出土した。地中石垣は、新たに南北に4本確認できた。この構築目的は今後の検討を要する。裏盛土調査では、凝灰岩系の土を中心とした盛土が厚さ6～9m行われていたことを、そして石垣裏に設置されている裏栗石層と裏盛土を区画する裏石垣を検出した。このような地中石垣・裏石垣・裏盛土を系統的に観察できた調査事例は、本城では初めてであり、今後の石垣修復工事に参考となる。

#### 6 稲荷曲輪調査

稲荷櫓台石垣修復工事及び、内松陰門石垣修復工事のストックヤード予定地の調査で、1月から2月まで行った。稲荷櫓台西側の、県警の官舎があった場所からは、試験場の基礎コンクリート及び瓦溜を検出した。



第3図 調査箇所位置図



第4図 調査風景（銀治曲輪 左、天守曲輪 右）

## 第2節 調査検討委員会の経過

山梨県指定史跡甲府城跡の公園整備・石垣修復工事に伴う発掘調査については、文献史学・考古学・建築史学・石垣研究・造園・都市整備の関連分野の専門家で構成した諮問機関として『山梨県指定史跡甲府城跡調査検討委員会』を組織している。この委員会において調査方法や調査結果、整備内容を報告・協議して、可能な限りその結論に基づいた調査・整備を行っている。

平成7年度山梨県指定史跡甲府城跡発掘調査検討委員会名簿

委 員	磯貝 正義 北垣 聰一郎 清雲 俊元 佐藤 八郎 十菱 駿武 関口 欣也 田畠 貞寿 谷口 一夫 野沢 昌康 萩原 三雄 服部 英雄	山梨大学名誉教授 奈良県立橿原考古学研究所研究員・文学博士 山梨郷土研究会理事長 前山梨県文化財保護審議委員 山梨学院大学教授 横浜国立大学教授・工学博士 千葉大学名誉教授・工学博士 帝京大学山梨文化財研究所所長 山梨県考古学協会名誉会長 帝京大学山梨文化財研究所研究部長 九州大学助教授
事業主体	小俣 文吉 歌田 日出男 砂田 晃式 渡辺 賢一 志村 武男 手塚 武久 加々美 格示 三井 時男 佐野 修平 岩間 昭憲	山梨県土木部都市整備課課長 山梨県土木部都市整備課課長補佐 山梨県土木部都市整備課課長補佐 山梨県土木部都市整備課課長補佐 山梨県土木部都市整備課公園担当 山梨県土木部都市整備課公園担当 山梨県土木部都市整備課公園担当 山梨県土木部甲府土木事務所都市整備課課長 山梨県土木部甲府土木事務所公園担当 山梨県土木部甲府土木事務所公園担当
設計監理	川上 敏朗	株式会社文化財保存計画協会
史跡管理	丸山 義朗 竹井 保久 出月 洋文 保坂 康夫	山梨県教育委員会学術文化財課課長 山梨県教育委員会学術文化財課文化財担当 山梨県教育委員会学術文化財課文化財担当 山梨県教育委員会学術文化財課文化財担当
事務局	大塚 初重 森 和敏 田代 孝 八巻 與志夫 柏木 秀俊	山梨県埋蔵文化財センター所長 山梨県埋蔵文化財センター埋蔵文化財指導幹 山梨県埋蔵文化財センター調査研究第2課課長 山梨県埋蔵文化財センター調査研究第2課第4担当 山梨県埋蔵文化財センター調査研究第2課第4担当

本年度開催した調査検討委員会は1996年12月8日（金）及び1997年3月22日（金）の2回である。それぞれの議事録については、以下にまとめて掲載しますが、委員からの質問はQ、事務局の回答はAとし、意見については☆を行頭に付した。

#### 平成7度第1回調査検討委員会議事録

日 時 1996年12月8日（金）13：30～

場 所 舞鶴城公園管理事務所会議室

会議内容 1. 前回議事録の承認

2. (1) 今年度発掘調査計画について

(2) 鍛冶曲輪勘定所跡

(3) 天守曲輪売店跡

3. 今後の工事工程について

4. 天守閣について

5. 現場視察

#### 前回議事録修正について

Q 駿府城は史跡指定を受けないのか？

A 史跡指定よりも復元整備を進めているようである。

#### 天守曲輪石垣について

☆ 現在の甲府城天守曲輪石垣は、勾配が極めてきついで復元するのは困難である。裏石垣は勾配もあるので表面の石垣と合わせて考えればロックフィルダムと同様の構造と言えよう。

☆ 五稜郭では堀の内側の石垣内から勾配がついた石垣が積まれていることを確認した。昭和43年の十勝沖地震の積み替え時に二重構造が判明しその通りに復元した。

☆ 松江城でも、櫓跡の調査から裏石垣のような遺構を検出した。これからも全国的にこうした裏石垣の事例が出てくる可能性があるだろう。

☆ 従来は出てきたものをそのまま直してきたが、今回の施工対策となるNO7石垣においては、新しい方法で強度が期待できるならば新しい方法を採用して行きたい。但し、裏石垣の設置目的が現状では定かでない。

☆ 築城当時の技術を残そうとするのがこれまでの基本的な考え方である。検出した遺構の性格がはっきりわからないのであれば、そのまま復元して後世に託すべきではないか。しかし安全面という点で見れば新しい技術を後世に残すのも甲府城の役割なので、きちんと記録を取りながら進めて頂きたい。

Q 裏石垣は部分的に現状保存できないのか。

A 安全面を考えて残せるものは残したい。

☆ 天守曲輪の石垣はこれまでの調査の中で一番高い石垣である。そのため前々回の会議で検討したジオテキスタイルでいきたい。内側はプラスチックのネットを入れて表面は従来工法でやらせて頂きたい。

Q ジオテキスタイルの工法を採用すると石垣はどのくらい残せるのか。

A NO5石垣は大部分残せる。その他は2割程度であろう。

☆ NO7石垣は築城期から何もない所に人工的に石を積んだ場所である。過去の経緯を見ると石垣改修だけでは駄目だった。そう言った当時の人々の考えた方法には、今も学ぶべき点があるのではないか。

☆ ジオテキスタイルは僅か10年足らずの歴史ではあるが、阪神大震災の例を見ると僅か5mmの誤差が生じただけであった。これを見ても土圧にはかなりの強さで耐えることが出来る。ジオテキスタイルの上に土を載せると、伸びながら土を押さえ付け、土を横に移動させない特徴がある。

Q 天守曲輪は自然の沢だったが水の心配はないのか。

A 水の影響はない。日光を受けた時の劣化があるが土中に入るので大丈夫である。

### 鍛冶曲輪について

- ☆ 鍛冶曲輪井戸内から出土した石灯籠の蓋手部分は丸みがあるので室町時代後半と考えられる。そうなると一蓮寺のものではないか。
- ☆ 江戸中期のものではないか。
- ☆ 勘定所跡の柱穴に沿う堀の礎石の間隔がまちまちだが、柱柱の跡が確認出来ないので堀とは言えないのではないか。

### 裏石垣・地中石垣について

- ☆ 昨年今年と2年間に亘って本丸、天守曲輪から地中石垣を検出した。設置目的は盛土を転圧するための仕切りと判断している。但し、5番石垣から9番石垣に沿う形で検出された石垣は地中石垣の定義に当てはまらない点が多くあったのでこれらは裏石垣と呼称する。
- ☆ 地中石垣と裏石垣が検出されたのは、自然地形で言えば沢状地形に位置する。また現況石垣と地山の推定線の位置がほぼ一致しているので石引き道の存在が考えられる。

### 今後の工事工程について

- Q 整備事業は予定通り10年計画で実施するのか。
- A 石垣の改修工事の状況から見て1年間余裕を見ている。
- ☆ 天守曲輪石垣の施工については石の痛みがひどいので新補石材を多用する。  
そのため当初設計した高さまで積めるかどうかはわからない。

### 門の復元について

- ☆ 発掘調査の結果礎石受けの跡と当時の生活面を検出した。生活面は門とその前面で段差があることから、裏見寒話にあるようないわゆる寺社の四足門形式でなく薬医門形式であることがわかった。(掛川城も四足門という表記があるが形式的には薬医門)
- Q 潜り戸は城門としては一般的か。
- A 鍛冶曲輪門は2尺6寸、松山城をみて多く見られる。
- Q 硙石はどうなっているのか。
- A 現状ラインで復元予定。
- Q 前回の委員会で話し合った拡大写真の用意は。
- A 今まで提示していない絵図が存在しており、所蔵者と対応中のため今回の委員会では提示出来ない。
- Q 屋根の形状は切り妻でよいのではないか。
- A 計画を進めて行く段階で、どうしても入母屋でというなら変更も可能である。
- Q 大きな門なら入母屋もありうるが鍛冶曲輪門は切り妻でよいのではないか。
- ☆ 大扉は通常閉めておき、通用門を潜るようになっていた。
- ☆ 潜り戸は柱穴の位置のずれから西側に設けられる。門東側の腰石垣天端の扉は現段階では決めていない。

### 天守閣について

- ☆ 昭和42年の総合調査報告書等では甲府城に天守閣はなかったとされるが、他の城との比較や金箔瓦の出土などから、あったのではないか。そうならば熊本城の字土櫓程度のものではないか。
- ☆ 天守台の穴蔵入り口に礎石があるが天守門の柱の補強金具がついていたとすれば、礎石にかなりのズリ跡が残っているはずなので確認が必要である。確認されれば時期などの目安になる。
- ☆ 天守閣についてはその有無を新しく考え直す方向でよいのではないか。
- ☆ 今回の天守閣調査においては多くの疑問点も出て来たが後戻りしたくないので報告書を出すことにした。
- ☆ 調査は天守閣を作りたいという希望からスタートしているので大いに議論し結論を出さねばならない。
- ☆ 天守閣があったかどうか議論するのもよいが、建てられるかどうかが問題である。また謝恩塔をどうするのかも含めて検討して行きたい。

☆ 天守閣がなかったといわれていたが、豊臣が甲府城に手を入れたことが分かってきたので考え方を変わってもおかしくない。

#### 北垣先生より

- ・ 天守曲輪石垣の地山付近の根石の痛みが激しいので根石を積む場合その点に考慮して頂きたい。
- ・ 5番石垣が築城期のものと思われ最も安定している。7番石垣の間知石垣の裏は石がずれているが、出来るだけ大きな石は使うようにして欲しい。また7番石垣施工に際しては5番石垣を参考にして欲しい。
- ・ 甲府城が山・谷ありの地形の上に出来ているのが分かる。こうしたなかで傾斜面に石を積んでいったというデータが全国的に見られないため、甲府城では詳細な調査をお願いしたい。また一般の人々にPRするようなビデオの作成はしないのか、検討して頂きたい。

#### 平成6年度第2回調査検討委員会会議録

日 時 1997年3月22日（金） 13:00～17:00

場 所 甲府市社会教育センター1F会議室

会議内容 1. 前回議事録の承認

2. 工事計画について

3. (1) 発掘計画報告

(2) 天守曲輪売店跡

(3) 稲荷曲輪櫓台

4. 城郭石垣検討委員会

事例報告

（但し、Qは質問、Aは応答である）

#### 1～3の議事録

Q 築城期の瓦はどういう方法で時代を決めたのか。

A 織豊期城郭研究会刊行の「織豊期城郭の瓦」等を参考に甲府城出土瓦の文様を分類比較して決定した。具体的には甲府城の築城期の瓦の特徴として、軒丸・鬼瓦に浅野家（達い塵の羽紋）が模してあるもの、厚手の軒丸瓦には均整唐草紋の中心飾りが三葉と五葉の模様がある。

また軒丸瓦では巴と連珠の表面が平で厚手の瓦が出土している。

Q 稲荷櫓台と南腰石垣の上に多聞櫓がある絵図は確認されているのか。

A そういう絵図は確認できていないが、発掘により築城期の瓦が多量に出土し礎石も井桁状に検出されている。その南西隅の礎石付近と南西と北西の礎石の中間から輪宝が出土していることから、櫓が存在していたことは明かであると思う。また今年度調査区より南側で平成6年度に行った調査で礎石と考えられ平石が直線状に検出されていることから南に伸びてなんらかの建物があったのではないかと推測される。この建物が多聞櫓ではないかと考えている。

Q 多聞櫓は大正の謝恩碑を建てた時に壊されたのか。

A いいえ、柳沢の時の絵図には描かれていないので、その時点ですでになかったものと考えられる。

Q 2個の輪宝は出てきた間隔は一間くらいあったのか。

A 2つの距離は片方が搅乱の為はっきりしたことが言えない。南西隅の礎石付近より出土した輪宝は、地表より30cm下がりで礎石より15cm下がった所より出土している。

A 建物の中心に四隅に埋める場合があり秀吉が子供の為に建てた寺より地鎮祭跡の出土した例があります。この輪宝も同じ時期のものではないかと思われる。

## 各城郭の調査目的と方法についての説明

### 1. 盛岡城（盛岡市教育委員会）

石垣の孕みが認められ損壊の危険もあり1984年より石垣解体と発掘調査を行った。これは掘削される遺構の記録と石垣解体の基礎資料収集を目的とした。特に石垣の断面と盛土との関係を調査した。盛岡城は中世の城を江戸時代に再利用したものである。江戸時代と思われる石垣に番号を付けて解体し、その後旧石垣出土の記録を取りながら石垣を下げ根石まで解体したが根石は残した。

### 2. 八王子城（八王子教育委員会）

整備事業に伴い曲輪内部の平面調査と石垣検出調査を行った。詳細は報告書の通りである。

### 3. 金山城（太田市教育委員会）

平成4年度より日の池の石積みの崩落により発掘調査及び復元修繕を目的とした事業に着手した。整備事業に追われて調査を行っている状況である。石垣調査については地中に埋れている石垣を掘りだし、根石の確認までをしている。

### 4. 海津城（長野市教育委員会）

昭和56年度に史跡指定となり石垣調査を行っている。今年度より石垣解体を始めた。平面調査、番付、解体、断面図の作成を行っている。

### 5. 甲府城

石垣の痛みが激しいため平成2年度より修復工事に着手しているので、この事業と平行して石垣破損原因、石垣構造、裏盛土状況の把握を目的に調査を行っている。この調査の中で地中石垣・裏石垣を検出した。これらの石垣裏施設の構築目的を把握し、調査検討委員会の指示を前提に従来工法を重視した協議を事業サイド行なうながら整備事業に今後も反映して行きたい。

## 石垣解体調査について

Q 盛岡城の場合、解体の時に立ち会いはしているのか。

A 石垣をはずしながら調査と工事を同時進行しているが、遺構が検出されたら工事をストップさせ調査を行っている。

Q 八王子城は調査が大分進んでいるようだが石垣解体時の調査はどのように行ったのか。

A 曲輪平面調査と石垣調査が中心である。当城は天正10年代の一時期の城だったので石垣の裏からの遺構の検出はなかった。よって盛土の状況を観察した。

Q 金山城ではどのようなですか。

A 平面調査と石垣解体を行っている。特に石垣解体では小さな石材は調査側が処理し、大きな石材だけは業者に委託している。

Q 金山城と八王子城は戦国時代に石垣を積んでいたのか。

A 八王子城の場合は見栄えのする場所に石垣が築かれており、天正10年代のものと考えている。

## 事業内容（整備事業費の負担部局について）

- 八王子城は市の単独事業です。
- 盛岡城は文化庁の補助事業として行っているが、工事については公園緑地課が、調査については教育委員会で行っている。
- 金山城は工事については公園緑地課が、調査については教育委員会が行っている。

## 八王子城の石垣について

Q 八王子城の石垣は天正18年を境に石垣構造が違っているのではないか。

A 一概に断定できない

Q 後北条氏には石工がいたのだろうか。

### 石垣の裏盛土について

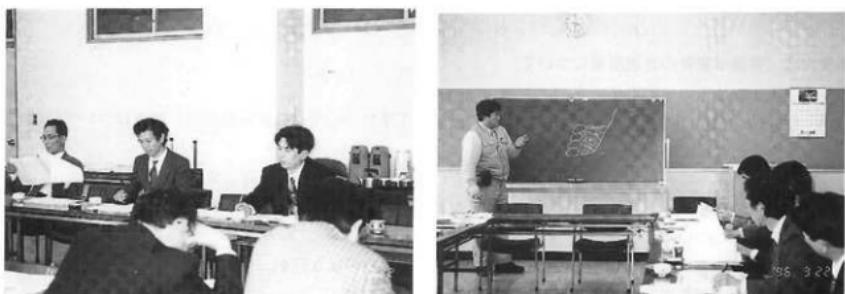
- Q 時代により裏盛土には違いがあるのではないか。
- Q 裏栗石の使い方は時代別に西日本と東日本では違っているようであるが、これは西日本の影響と考えられるのか。
- Q 石垣の石積みの違いはどのように考えるべきか。
- Q 裏栗石を伴う石垣とそうでない石垣は地方色であり、時代的な特徴として把握すべきでないか。
- A ご指摘の裏栗石の有無によって石垣の高さが異なることは事実である。
- A 八王子城・金山城の石垣（石積み）については裏栗石と裏盛土の両者が明確に区別できないが、盛岡城と甲府城は時代が下がることもある、区別されている。
- A 盛岡城の場合は裏栗石と盛土を区画する石積（甲府城では裏石垣）が石垣の勾配と平行している。このことは裏盛土が優先されて施工されていることを示している。
- A 甲府城の場合は天守曲輪石垣が先行していると考えるべきであろう。
- A 石積と石垣の違いについては、裏栗石の有無で区別することも可能ではないでしょうか。
- Q 金山城と八王子城石垣に明確な裏栗石が確認できないということは裏栗石技術が東国に伝播するのは天正18年以降と言えるのではないか。

今後西日本の調査事例も踏まえて再度検討会をおこなうべきである。その他石垣技術の変遷について裏栗石に使用される石材が玉石と割石の場合の違いについてなどの技術面についても議論がありました。

また再度このような全国各地の調査事例を検討すべきことが各委員から強く指示されました。



第5図 第1回委員会現場視察（天守曲輪）



第6図 第2回調査検討委員会（石垣検討会）

## 第3章 発掘調査

### 第1節 鍛冶曲輪

#### 1) 曲輪の沿革

本丸の南下20mの東西に長く堀に面した曲輪を鍛冶曲輪と呼んでいる。この曲輪には南側の腰石垣に沿って東側から2棟の米蔵と1棟の雑庫が建てられていたことが宝永2年の絵図(柳沢文庫蔵)に見える。東の米蔵は東西30間、西の米蔵は東西20間、その西に隣接する雑庫は東西5間であった。享保9年からの甲府勤番支配時代初期の絵図と考えられる甲府城内屋作図(露木家蔵)には東側の米蔵は描かれていない。享保9年甲府城引き渡しに町年寄として立ち会ったときの覚書を宝曆年間に清書した坂田家蔵の絵図には西側の20間の米蔵1棟、雑庫1棟、そして曲輪の北側中央に番所1棟、その東側に勘定所1棟が描かれている。勘定所の規模を絵図から正確に読み取ることは困難であるが、米蔵との比較から東西20間程度であったと推測できる。本曲輪の調査は、2年目から断続的に実施してきており、今年度は4度目である。初年度は、東にあった東西30間の米蔵跡地の調査を行ったが、礎石等の検出はできなかった。安政元年(1854)11月に起きた大地震で鍛冶曲輪南東の石垣が幅30m以上にわたって円弧滑りを起こして堀の中に崩落したと伝えられている。この時に米蔵の地盤も崩落していたために検出できなかつたことが、2年目(91年度)の調査で現在の公園地盤が後に盛土されていることで明かとなった。4年目には、曲輪の北側への水路の設置に伴う調査を行った。西に位置していた米蔵については、5年目(1994年)の調査で土蔵の基礎地盤を検出しておらず、同時にその周辺から明治初年に建てられた勤業試験場の基礎も検出した。明治の古写真とこれら検出遺構との検討から、この米蔵が勤業試験場の施設として明治年間に使用されていたことが明かとなった。

明治以後の本曲輪の利用状況は多種多様であるが、現在までに確認できている範囲を以下に述べる。明治初年の殖産興業政策の一環として勤業試験場として葡萄酒醸造所が曲輪中央部に建設された。その後、城跡全体が果樹や桑栽培試験場として、様々な桑や果樹などの作物が植えられていた。しかし、同37年4月山梨県は甲府城跡を舞鶴公園として、県民に解放した。同39年に開催された一府九県勤業博覧会は、城跡全体を会場としたことが、同年の施設平面図で伺うことができる。当時の写真とその図面を見ると、南の堀中央部の腰石垣を崩して、新たに橋を架けてパリの凱旋門を模した正面ゲートを設置し、曲輪内には南北に2棟が並ぶ陳列館が1号館~4号館まで合計8棟、その他守衛所・湯呑場・救護所などの建物が所狭しと立ち並んでいた。一方鍛冶曲輪の西側にある楽屋曲輪には、明治33年4月に甲府中学が新築された。

その後大正6年4月に村松基蔵氏が国有地であった甲府城跡の払い下げを受け、山梨県に一括寄付した。これによって、甲府城跡は山梨県の所有となり、この鍛冶曲輪は昭和初年まで甲府中学のグランドとしても利用された。その後は昭和11~12年に撮影された空中写真によると、本曲輪の東に建物が建てられている。昭和20年以後は駐留米軍の兵舎も建てられ、更に昭和40年代までは県庁別館も建てられていた場所でもある。庁舎の移転後は、本公園の最も広い空間となり、各種の催し物会場として盛んに利用されていた。特に、曲輪の東側半分には植栽もなかったため、催し物のテントなどが建てられた場所であった。

#### 2) 調査の方法

本年度の調査範囲は、既に調査を終了している場所を除いた曲輪東側中央部とした。検出される予定の遺構は、江戸時代では勘定所跡、番所跡及び井戸、明治時代では陳列館の基礎、戦後の米軍兵舎、その後の施設では県庁舎の基礎などが想定された。



第7図 鍛冶曲輪調査位置図

過去の調査から、この曲輪は南に急激に傾斜する安山岩と凝灰岩の地山の上に2~6mの盛土を行って構築されたものであることが明らかとなっている。具体的には黄褐色粘質土と灰白色粘質土、緑色粘質土を互層につき固める工法で盛土が行われており、岩盤に近く湧水で軟弱な地盤の場合での盛土には、杉などの針葉樹の枝や葉を敷き詰めるソダ工法が用られている。

標準土層は、表土が公園管理のために敷かれた厚さ10cm前後のジャリ層、その下に黒色土が10cm前後あり、その下に盛土の上層である黄色褐色粘質土層がある。この黄色褐色粘質土の上面で、柱穴のプランを確認できる。

この土層の厚さは場所によって異なるが、20~50cm程度である。この土層の下に凝灰岩・安山岩の地山が検出される場所と、暗褐色粘質土層になる場所がある。後者は互層の客土の一部である。凝灰岩が検出される範囲は調査区（曲輪）中央より北で、北側に寄るほどその検出面は上昇し、調査区北では黄色褐色粘質土は検出されずに凝灰岩が表土の直下で現れる。

調査は、重機によって表土を30~40cm前後除去し、5mグリットを設定して人力による遺構確認調査を行った。この時点で確認された遺構は、柱穴群と東西に直線に並んだ礎石と思われる表面が平らな石であった。柱穴は、その形態によって方形・円形・椿円形、大きさも様々であった。柱穴の覆土は、黒色土が多く、出土する遺物も丸釘やガラスなど明治以降と考えられるものがほとんどである。これらの柱穴の多くは催し物のテント用の柱穴であったと考えられるため、覆土中の遺物留意をしながらの調査を行った。また、曲輪北側では表土が黒色粘土であったが、これは堀の浚渫土をおいた場所である。この土の中からは、近代の陶磁器片が多数出土している。

### 3) 一府九県総合共進会陳列館跡

第9図の通り、曲輪中央部に設置された表門の正面に噴水池、その左右に南北に長い第1号東・西館が、その東側に東西に長い第2号館が南北に並んで2棟、西側には東西に長い第3号館が南北に並んで2棟、その西に東西に長い第4号館が南北に並んで2棟、その西に事務所1棟、第4号館の北に郵便電話棟・救護所が、第3号南館の南に守衛所・湯呑所が設置されている。

調査区の南側から、東西70~100cm、南北60~70cm、深さ30~40cm、底部にモルタルが打ってある方形の柱穴群が南北6m、東西56m以上の範囲で検出された。これらの柱穴群には、モルタルが使用されていることから、明らかに明治以降の施設の基礎である。このような大規模な施設が建てられたのは、明治39年の博覧会以外には記録がない。博覧会の施設平面図では、既に述べたように、陳列館が南北に2棟並んで書かれている。昭和にも保健所などの公共施設があったが、これ程大きな規模ではない。そのためこの柱穴群は、第2号南館の基礎列と考えられる。同平面図では、曲輪の北側半分にも同様な規模の陳列館が描かれているが、調査では南側で確認された方形で底にモルタルがある柱穴に類似した柱穴群を確認していない。南北2棟の陳列館の基礎構造が異なっていたのか、或いは一段高い地盤であったために削平されたものか現段階では判断できない。

### 4) 柱穴群と礎石列

調査区中央東側には、方形の柱穴群が検出された。しかし、柱穴の深さや形状が一様ではなく、明確な関連を見いだすことはできないが、比較的大型（直径1m前後）の柱穴を結ぶと、第10図に示した建物の平面図を想定することができる。

調査区の北端付近では、方形の柱穴群と円形の柱穴群が検出された。北東側では大型の円形・方形柱穴群も重なった状態で検出されている。それぞれの覆土に違いが認められるために時間差がある。また、中央には東西に直線に並ぶ礎石列が検出された。この礎石の間隔は、2間（1.8m）程度であり、東の端は石組み井戸北側に重なる。この礎石列は板塀のものと考えられるが、江戸時代の絵図には描かれておらず、今後の検討が必要である。

### 5) 石組み井戸

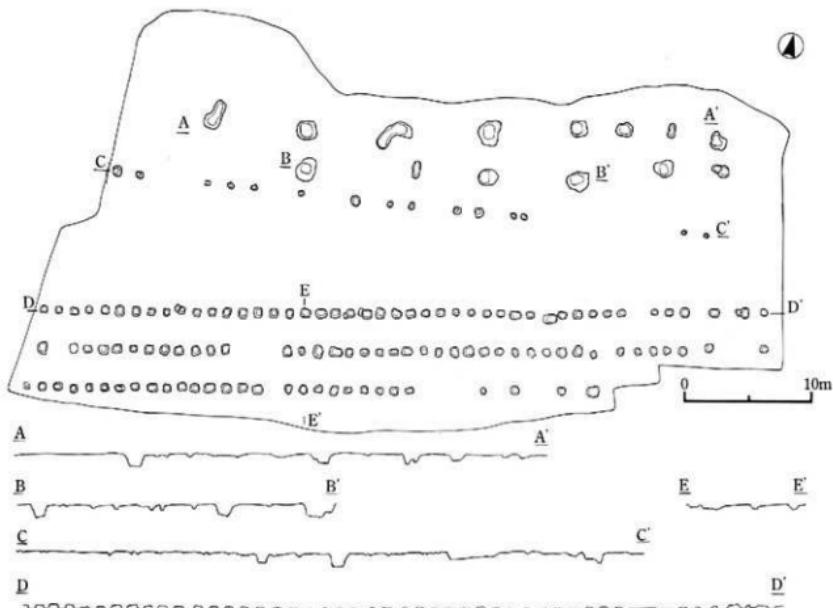
調査区中央東側から検出された石組み井戸は、石組みの周囲に栗石をロート状に巡らしたもので、深さは4mまで掘り下げたが、危険のために底までの掘り下げは行わなかった。この曲輪の地盤は、既に記したよ



第8図 錬冶曲輪調査区全体平面図



第9図 明治39年博覧会平面図

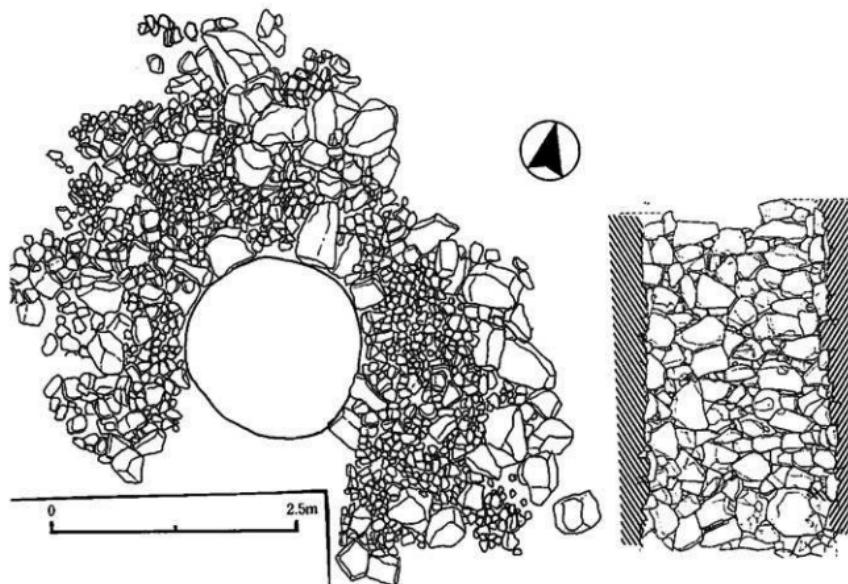


第10図 陳列館跡実測図

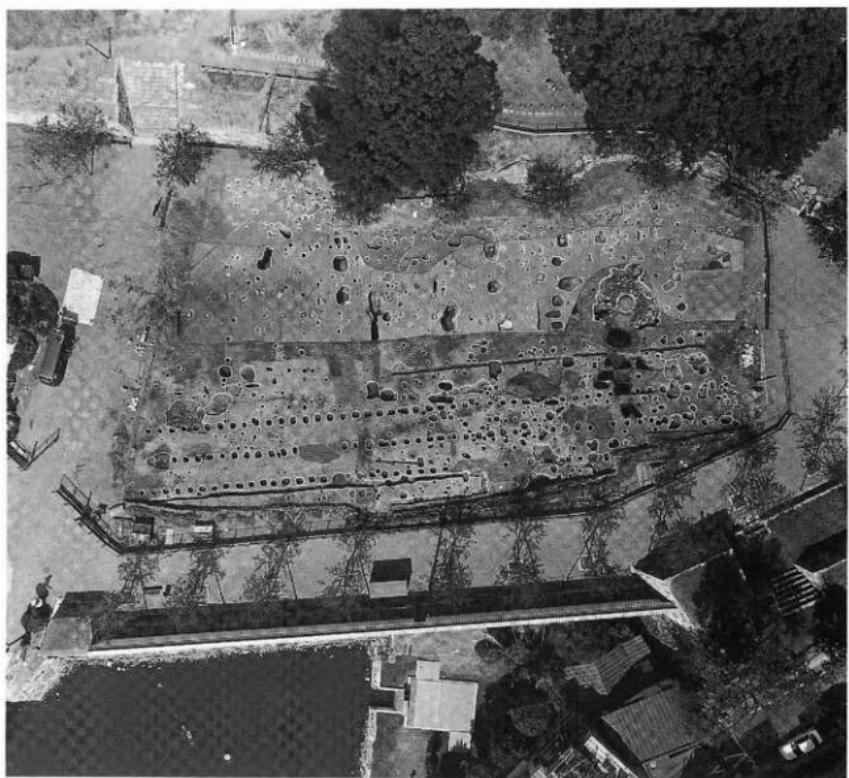
うに、北側半分が岩盤、南側半分が盛土であり、深く掘り下げるても安山岩か凝灰岩に突き当たり地下水脈に到達することはできない。そのため、ロート状の栗石は、周辺に浸透した地下水を井戸に導くために設置されたものであろう。

この井戸は、江戸時代の絵図5種類に描かれてる。具体的にはN01「柳沢以前の甲州府中城図（露木家蔵）」、N02「楽只堂年録付図（柳沢文庫蔵）」、N03「享保9年辰年引渡之節之以絵図（坂田家蔵）」、N04「元文4年3月銘甲府城絵図（県立図書館蔵）」、N05「甲州文庫収蔵甲府城絵図（県立図書館蔵）」の5種類である。これらの絵図によって、井戸の存在は確認していたが、明確な位置は表土剥ぎ途中で検出された。栗石は半径3mの範囲に広がり、その中心に直径1.8mの石組み井戸が構築された状態である。

井戸の石組みは厚さ20~30cm、長さ40~50cmの自然石を主に横に積み重ねており、加工石材は使用していない。掘り下げのために南側の石組みを一部崩して、人力による掘り下げを行い、掘った土を重機で搬出する方法で調査を行った。石組みの外側には栗石が充填されており、掘り下げるにしたがって水が湧く状態となつた。栗石の範囲は直径6mで、その中心に直径1.8mの石組み井戸が構築された状態である。この曲輪は凝灰岩が南に傾斜した地山に粘質土を中心とした地形によって構築されており、土層確認の南北トレンチでは、瓦層の粘質土とその中間に針葉樹の枝と葉が敷き詰められているのを確認している。また深い柱穴の底でも、同様な状態を確認している。深い柱穴や昭和40年代に解体された保健所のコンクリート基礎が埋められていた穴の底でも同様な枝や木の葉が認められた。このような地盤の中で井戸を掘っても十分な水量を確保することは困難なため、雨水や少量の浸透水を井戸に集めるための栗石であろう。この井戸の調査は、整備事業の影響が及ばないように工事サイドとの協議が行われたため、地下4mまで掘り下げを中断し、採石で埋めもどした。この井戸は江戸時代には絵図に描かれているため、機能していたと考えられるが、明治時代に使用されたかどうかは不明である。



第11図 井戸実測図（平面図、断面図）



第12図 調査区全景



第13図 井戸内調査状況

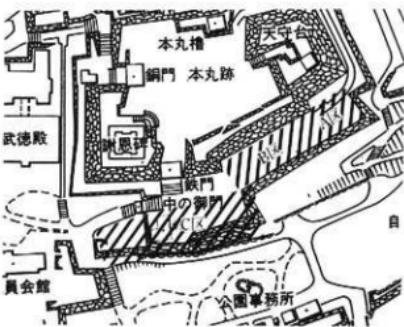


第14図 勘定所位置 (坂田家所蔵)

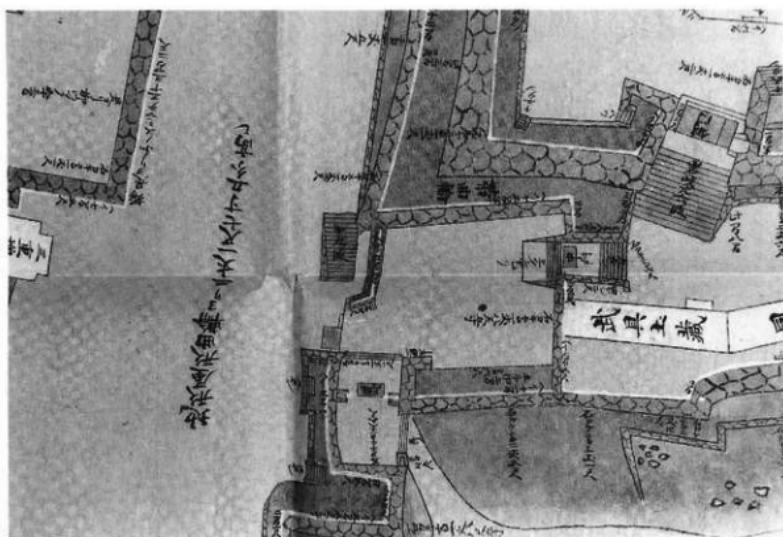
## 第2節 天守曲輪

### 1 曲輪の沿革

天守台と本丸を東側から南に鎧方に開む帶曲輪を天守曲輪と呼んでいる。この曲輪には、鍛冶曲輪から坂下門を通って中の門に入る西側の入り口と、稲荷曲輪から天守台北東にある天守曲輪門を経て入る北側の入り口がある。この曲輪から本丸へは中の門の北にある石段を上って鉄門から入る。鍛冶曲輪から天守曲輪へは、鍛冶曲輪の北西にある石段を北に登って坂下門に入り、そこから東30mにある中の門へは3段の石段を登る。門を経ると9段の石段を登って天守曲輪に至る。中の門の南袖石垣は東西に4間2尺、この石垣の南に1間4尺離れて武具土蔵が柳沢文庫蔵の絵図には、「く」の字状に描かれ、坂田家蔵の絵図には「御土蔵」として直線に描かれている。この武具庫が建っている所は、この曲輪の中では最も幅が広い場所で、南側には高さ3丈1尺(9.3m)、西側には高さ1丈8尺5寸(5.55m)の石垣がある。土蔵北側にある中ノ門の袖石垣と土蔵との間は1間4尺あり、土蔵の梁間は2間、土蔵から南は3間5尺で南の高石垣に至る。土蔵の東端には、5間半の長さの石垣が南北に伸びている。この石垣の北端から東に直角に曲がった石垣が長さ約60m延びている。南端で西に折れた石垣は、14間3尺5寸延び、再び南に折れて2間、さらに西に9間延びて中の門の西から南に伸びる石垣に突きあたる。この場所を形成している天守曲輪南石垣の高さは既に記したように3丈1尺~3丈8尺(9.3~11.4m)と高く勾配もきついため、石垣の根元を護るために石垣



第15図 天守曲輪調査区位置図



第16図 天守曲輪部分（柳沢文庫蔵絵図）

が、この石垣より2間離れて6尺程の高さに積まれている（第16図）。

## 2 前年度までの調査

### 1) A区の調査

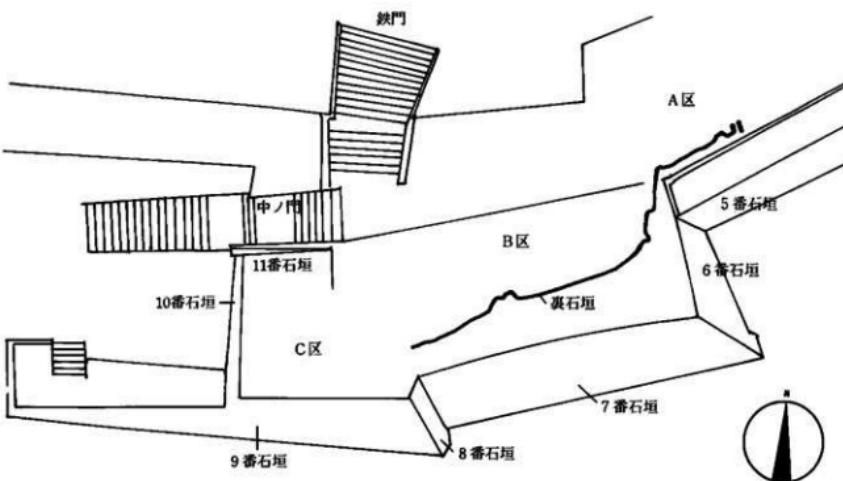
この天守曲輪は、土蔵の東側から幅が狭くなり、天守台の南東で天守台を取り囲むように北に延びている。調査は、曲輪幅が狭くなっている範囲をA区として行った。この狭くなっている範囲の中央付近から西側に5m間隔の南北方向のトレーナーを設定して遺構の確認作業に着手した。表土を重機により除去した時点で検出された遺構は、瓦溜めとゴミ穴であった。その下から検出した遺構は、明治39年の勧業博覧会の陳列館の基礎とモルタル塗喰層である。これらの下部での遺構の検出はなかったが、南北に連なる石列を4m間隔で3本検出した。これらの石列を掘り下げると、乱雜ではあるが石を積み重ねた状況を呈している。しかし、上面に平らな石を並べている、あるいは左右のどちらかに面がある石をそろえて積んでいるなどの石垣的な要素は認められない。さらに掘り下げて、この石列の一方向を掘り下げて構築地盤の確認と側面観察を行ったが、根石は、地山の傾斜に沿って南に下がって、地山直上に据えられているが、石材相互の空間は大きく、自立できる構造とが考えにくい状況が認められた。

これらの南北方向にある石積の南端は、東西に設置された腰石垣に接する。この腰石垣の地中に埋設されている部分は、面を有する数十cmの石を乱雜に積み上げており、勾配も付けられ、石垣としての要素を複数有していると考えられた。つまり、南北石垣とは全く異なり、明らかに面を有する石垣と呼んで遜色ない遺構である。高さは2~3mと高く、一部には反りも認められる石垣である（第18図）。

### 2) B区の調査

土蔵の敷地東半分をB区として基礎確認作業も並行して行ったが、土蔵の南東側石垣出隅が昭和20年代に崩落して積み直されたために、周辺の搅乱が著しく明確な遺構を確認できなかった。しかし、北東の入隅付近では3個並んだ平石を検出した。曲輪の地表面がこの付近から東側が一段高いため、石段の一部あるいは、土蔵入り口付近の敷石と考えられたが、周囲には瓦溜めがあり、その搅乱のために広がりは確認できなかった。

一方、この調査区の中央でも南北に並んだ石列を北半分で検出した。そのため、東側のA区で検出し

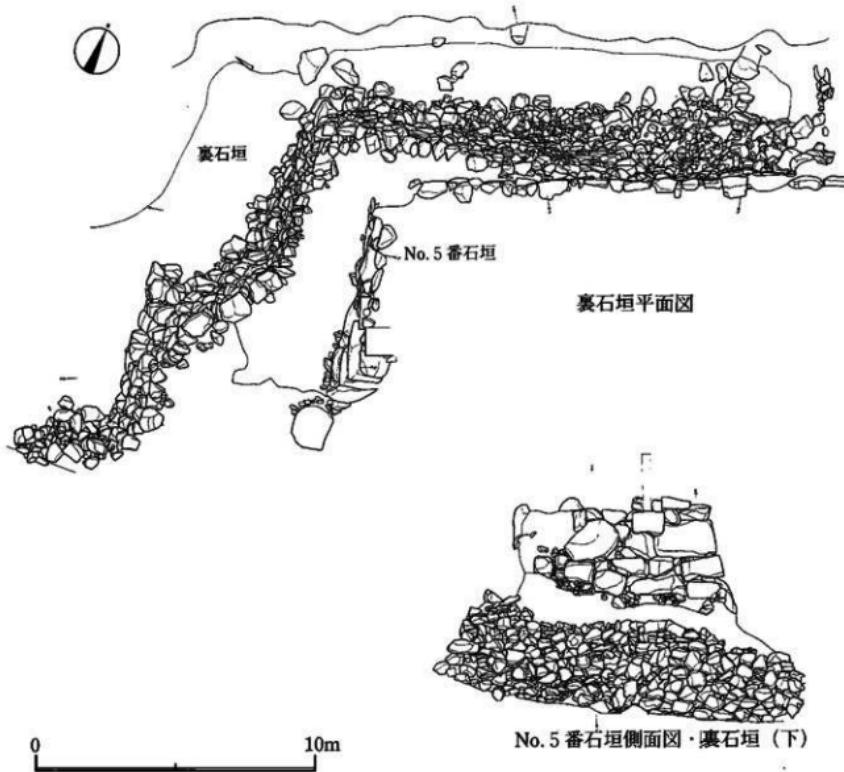


第17図 裏石垣位置図

た石列との関連を知るために同様な調査を実施した。石列東側のトレンチの深さは4mを越えて掘り下げる事ができないほど深くなつたため、中断し、北側半分を埋め戻した。その後に南側の掘り下げを行つたが、南側の高石垣の裏栗石層に達したため、調査を中断し石垣解体工事の中で行うこととした。トレンチの東西壁の土層観察では、北側から南側に地山の傾斜に沿つて土を埋めており、A区の状況と同様であった。

### 3 今年度の調査

土蔵敷地の西側半分をC区として、売店の撤去後に調査を行つた。この調査では、絵図にある井戸の位置を確認することと土蔵の基礎を検出することを目的としたため、事前に地中レーダー探査を行つた。この探査では、調査区の南西側に落ち込みが確認され、全体としては軟弱な地盤であることが明かとなつた。そのため、全面を掘り下げる調査方法は、石垣の安定性を左右することとなるため、50cm以上掘り下げる場合はトレンチ方式を採用することとした。表土を除去して人力によって精査を行つた時点では、売店の浄化槽の搅乱が確認された。その後は全面の掘り下げを中止し、第一トレンチを調査区北側に東西に設定した。このトレンチでは瓦溜を確認し、地中で南北に連なる石列も確認した。この石列は、



第18図 裏石垣実測図

石垣に共通する左右どちらかに面を揃えているか、あるいは勾配をもっているかなどの状況を確認するためには深く掘り下げる必要があるが、深さが2mを越えると予想されたため、この調査も中断し、南側石垣解体を先行させ、2m下まで解体が終了した時点で調査を行うこととした。

このように、調査が先行するには危険が大きいため、天守曲輪6番～9番石垣の解体は、西側の9番を先行させて着手し、9番を2m解体した後は、6番7番の隅から解体を行う方法で、調査と石垣解体工事を並行させることになった。(第22図)

#### 4) 石垣解体中の調査

##### (1) 調査に至る経過

2mピッチで石垣解体工事を中断して発掘調査を行う理由は、既に述べたことも含めて概ね次ぎの3点が考えられる。

- ① 絵図に記されている石組井戸の残存構が、地下2m以下に存在する可能性が高い。
- ② 裏盛土と栗石の関連を把握するためには、築城当時の尺度である6尺3～7寸(約2m)を1間とした規則的な調査が有効と考えられる。
- ③ 地中石垣と裏栗石層との関係も、同様に築城期の尺度である1間が2mの倍数のピッチで変化していると推測される。

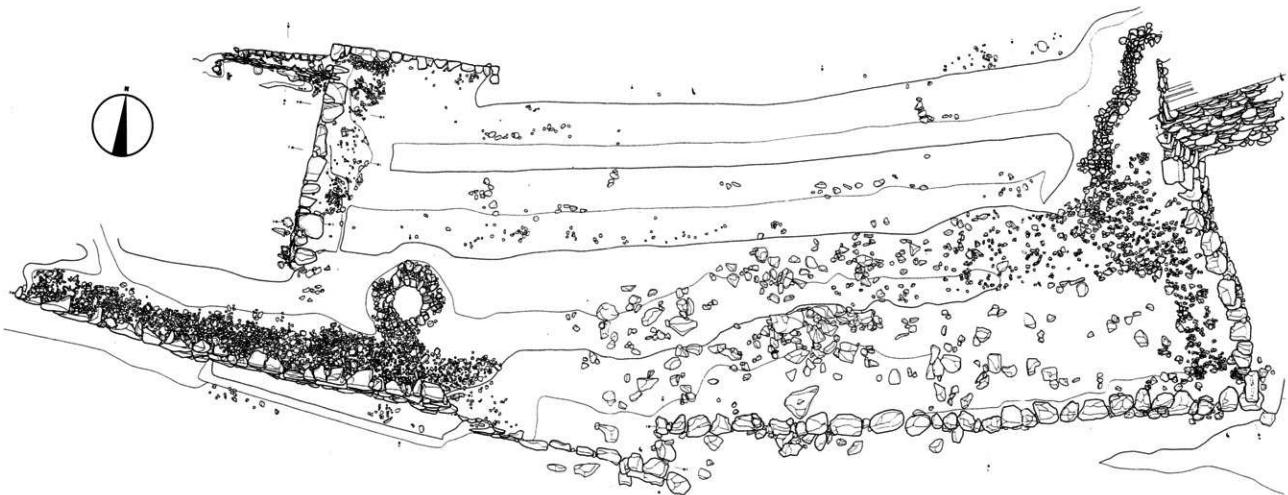
このため、隔週で調査・工事関係者で開催している工程会議で協議し、関係者の協力を得て行うこととした。

具体的な解体工事及び調査の手順は、築石を撤去して栗石を取り除く作業を終了した後に、築石と栗石の境を明確にするための清掃調査を行う。その後は、裏盛土を除去して、再び盛土の調査を行うという内容である。解体作業は9番・10番石垣の隅以東から着手し、クレーンによる石材の吊り出し作業と重機による裏栗石層の除去は、原則として立ち会い調査とする。また、遺構の検出や遺物の出土について作業中でも中断して調査を行う。

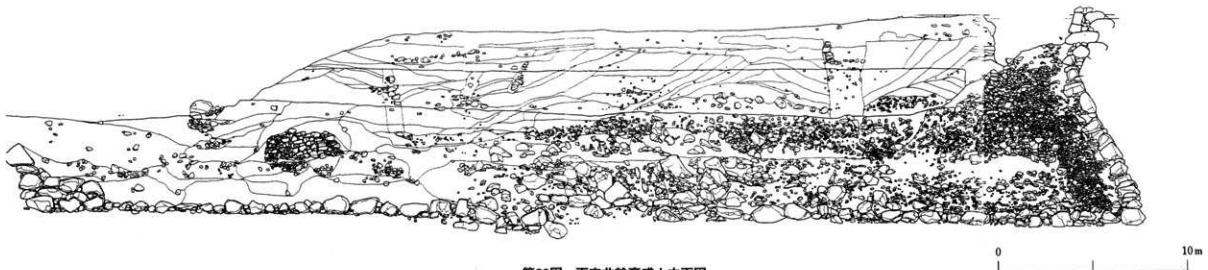
##### (2) 調査結果

第1次解体(9番石垣上部2m)終了後に築石と栗石層を清掃する人力による精査を行ったが、江戸時代中期に積み直されたと考えられている9番石垣の裏込の厚さとその石材、裏盛土の様子は、次のとおりである。

裏栗石は、玉石より山石と石材加工の際にできる木端石が中心である。その幅は、2～2.5m前後であった。この幅の違いは、築石の控えの長短によるもので、築石の石面からの裏栗石層の厚さは、平均3mである。栗石と裏盛土の境界には、石列が認められるため、境界の石垣が構築されていたと思われる。9番石垣の東端から北に折れた8番石垣とその北端で東に折れる7番石垣の入隅付近で、築城期の裏盛土を確認し、この盛土中から地中石垣と思われる石列を検出した。この範囲については写真と図面に位置を記録し、7番石垣の解体に着手した。ここでは、7～9mの幅の裏栗石層を確認したため、その範囲の清掃作業を行った。栗石層と盛土の境界には石が積まれ、高さは2m前後あった(第25～26図)。裏栗石を支えるように積まれたこの裏側の石垣は、表の石垣と平行には積まれておらず、栗石の幅も一定ではなかった。このような、栗石層と盛土の境に積まれた石垣を、表の石垣の反対側に設置されているため裏石垣と呼称する。この裏石垣は、裏盛土に先行して設置され、暫定的ではあるが露出していたものであったと考えられる。盛土側を掘り下げて行くと、この裏石垣に直行する石列を確認した。この石列がA・B区で検出している地中石垣である。石垣の全容を検出するためには、周囲の掘り下げを行い、記録を作成した。この裏石垣は直線に積まれたものではなく、地中石垣と交わるか、あるいは接する付近で曲がっている。高さも2m前後であり、石材も20～40cmの大きさである。積み方も雑然としており、石材加工は認められない。以上の観察から、この石垣は、栗石の中から比較的大きめの石を選び出して石材として積まれたもので、その時期も裏栗石を充填したときであると推測される。



第19図 天守曲輪 6～11番石垣根石平面図



第20図 天守曲輪裏盛土立面図

### (3) 地中石垣と裏石垣

このような裏石垣の性格を地中石垣と比較するとその違いは、次の2点に要約することができる。

- ① 裏石垣では石垣に使われている石材に面があるが、地中石垣はない。
- ② 地中石垣が地山あるいは栗石層から積まれているのに、裏石垣は盛土上面や栗石層上面から積まれている。

両者には地山から積まれるか否かの違いが見られる。これは石垣の裏栗石を充填する作業が裏盛土より先行した場合に、裏栗石を押さえる目的で構築されたものが裏石垣であろう。一方地中石垣は、盛土の施工途中に、土を敷き広げて突き固める作業の範囲を区画するため、一定の間隔に石を並べて石列を設ける。この作業の積み重ねで、石垣のように石が積み重なったものが、盛土の中に造られる。そのため地山より積まれる、これが地中石垣であろう。



第21図 天守曲輪裏盛土



第22図 7番石垣の裏石垣

このように考えると、両者の目的は全く異なることになる。つまり、地中石垣は、裏盛土施工中に積まれたものであり、盛土を強固にするために、あるいは工区を区切るために石列が結果として地中石垣と呼ばれるような形態を形成したものであり、当初から石垣を意識したものではない。反面、裏石垣は、本来の高石垣の石尻を支える栗石と盛土の壁にある。裏栗石が施工上先行するため栗石の動きを止めるために積まれたものであって、裏盛土が行われるまでの期間（極めて短期間、数週間程度）は地表に見えている構造物である。この裏石垣の検出は、天守曲輪6番石垣から5番石垣に及びており、5番石垣側では、比較的直線的に積まれていることを確認した。しかし、今年度の調査は、5番石垣東側30mを残して終了し、来年度以降に再び調査を行う事とした。

## 5) 天守曲輪石組み井戸

既に述べたように、絵図には天守曲輪 9番石垣と10番石垣の出隅より東側に井戸が存在していたが、曲輪面の調査では確認できなかった。解体工事を 2m ピッチで進めたところ、曲輪面より 6m 下がったところで突然穴が明き、円形の石組みが姿を現した。これが石組み井戸である。江戸時代中期に 9番石垣と一緒に崩落したが、利用されないため埋め殺されたものである。

この石組み井戸は再び崩落する危険があるため、人力による調査は困難と考えられた。この危険を回避する方法を検討した結果、検出面を水平に整地し、この整地面に日鋼をボルト・ナットで固定して井桁に組み、この井桁にライナーブレートをワイヤーによって吊り下げるところとなった。このライナーブレートの中に人間が入って掘り下げ、掘り下げた分だけライナーブレートを下に継ぎ足して行くことで、井戸の底部まで掘り下げて（深窓工法）調査を行った。また作業途中に井戸内部での酸素欠乏が心配されたため、送風機を設置した。ライナーブレートの自重は、 $120\text{kg/m}$  と重いため、継ぎ足し作業も慎重に行なった。

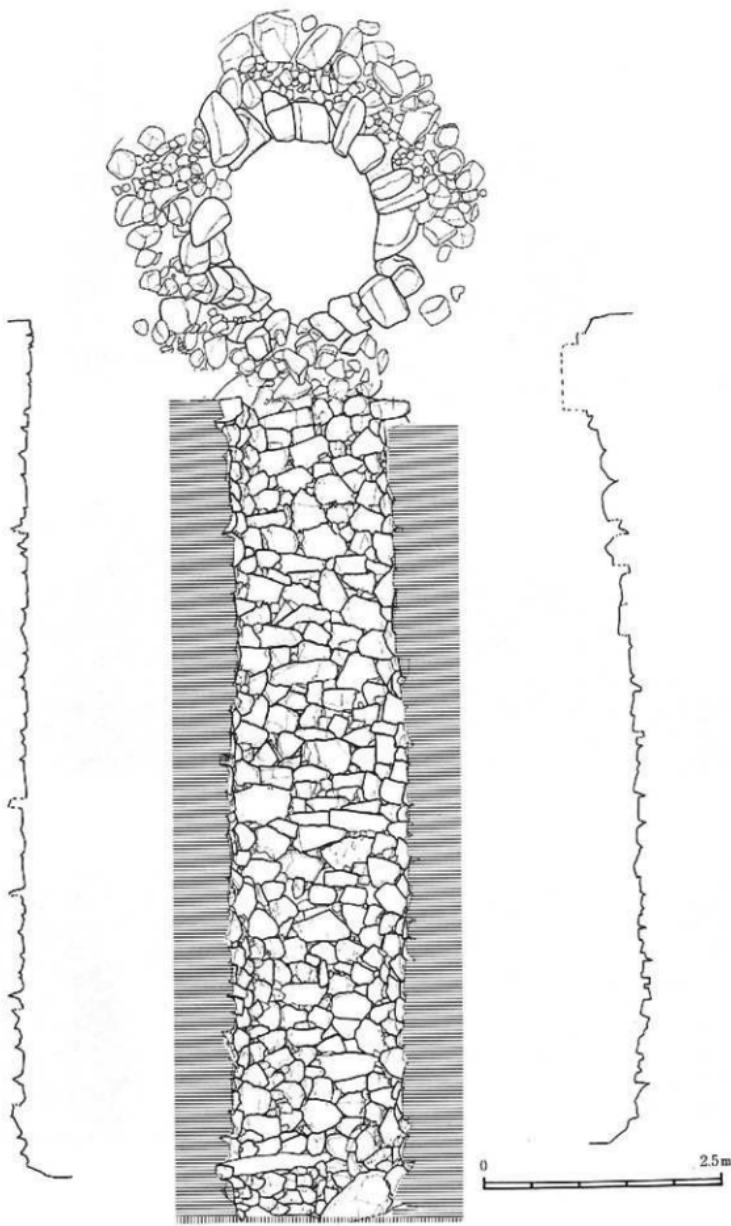
掘り下げ作業が終了した後に行なう図面作成は、石組みの内側に吊り下げられているライナーブレートを撤去して行なわなくてはならない。しかし、撤去後に数日間複数の人間が井戸内部に入ることも危険であるため、短時間に作業が終了する写真測量で図面を作成する方法を採用した。このため、掘り下げ作業が終了した時点で、ライナーブレートの抜き取りをクレーンで行った。

確認面から 4m 下までは、井戸周囲に積まれていた石材と土が堆積しており掘り進むのに時間を費やした。しかし、4m を越えると瓦が 2m 程度堆積しており、瓦の間からは腐食した木材も検出された。6m 程度下がると、瓦に酸化鉄が付着するようになり一時水が溜まっていたことを想定させる。さらに 7m まで下がった所で、金箔鬼瓦の牙周辺の破片が出土した。その後の覆土は、瓦と土であり、9m を越える付近で砂や細かな土に変わった。井戸の深さは 9.5m で、安山岩の地山を 0.5m 程度掘り込んで底部となっていた。石組みはこの岩盤から積まれ、一部には丸太を廻木のように使用して積み始めていた。

この井戸は、鍛冶曲輪面より下に底部を設けようとしたが、岩盤のために水脈の下までは掘り進むことができなかつたもので、当初から豊富な水量は期待されなかつたと考えられる。そのために十分な利用もされないまま 9番石垣の崩落と一緒に崩れ、埋め殺されたものであろう。確認できた井戸の規模は、直径 1.6m、深さ 9.5m である。確認面が曲輪面より 6m 下がっていることを加算すると、当初は 15.5m の深さであったと推定できる。



第23図 井戸の調査風景（左）・全景（右）



第24図 天守曲輪井戸実測図



(1) 明治期古写真



(2) 6番石垣



(3) 6~7番石垣隅角部



(4) 7番石垣



(5) 8~9番石垣

第25図 天守曲輪石垣



(6) 5番石垣



(7) 7番石垣



(8) 9番石垣栗石



(9) 裏石垣



(10) 裏石垣全景



(11) 裏石垣調査

第26図 天守曲輪石垣

### 第3節 稲荷曲輪

稲荷曲輪は、本丸から北東側にある一段下の曲輪である。この曲輪には、北側に焰硝蔵が、その南には番所、北東角に稻荷櫓が、東側には武具庫3棟あったことが絵図に記されている。この曲輪から他の曲輪への通路は、曲輪西側にある柵門を出て屋形曲輪の堀の東側を北へ進むと山の手門、西に進むと外松陰門を経て屋形曲輪へ、番所の南にある坂道を東に登ると天守曲輪門を経て天守曲輪へ、曲輪南には鍛冶曲輪へ通じる稲荷門、南東には数寄屋曲輪へ通じる数寄屋曲輪番門がある。

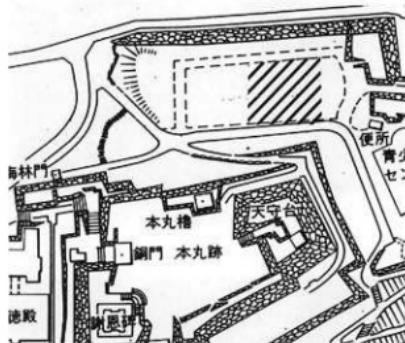
稻荷櫓には、武器が収蔵されていたことが享保9年の柳沢家からの甲府城引き渡し目録に見える。

稲荷櫓台石垣の状況は、西面には一部コンクリートが詰められた間知石積みが見られ、西面中央にある階

段もコンクリートが詰められ、南側に続く腰石垣は、大正年間に新たに設置された通路のために崩され、間知石垣となっている。今回の修復工事は、このように後世に手の加えられた部分を含めて存で危険な石垣を、穴太積み技法の石垣に復する内容である。

解体工事に先だって行う発掘調査は、ストックヤードとなる櫓台西側の約900mについて行い、その後に解体予定石垣の根石確認調査と石垣天端を実施することとなる。しかし、今年度中に実施した調査は、稲荷櫓台石垣修復に伴い、その工事のストックヤードとなる範囲及び櫓台石垣根石の一部の発掘調査に止まった。

調査は、調査区を南北に2分割し、北側から重機によって表土を剥ぎ、その後で人力によってジョレンをかけてプランを確認する方法で着手した。廃城後は、果樹栽培農場・蚕糸試験場施設・弓道場・県警官舎・県立青少年科学センター屋外展示施設などの用地として活用された場所のため、著しい搅乱を受けている。表土剥ぎ作業は、コンクリートの布基礎が検出された面で一旦止めて、精査を行った。しかし、瓦溜とコンクリート塊が埋められている搅乱以外に遺構と考えられるプランは確認できなかった。そのため、再度重機によってコンクリートの布基礎を除去し、再び人力による精査を行った。この調査でも検出できたものは、試験場建物の撤去に際して重機によって掘られた廃材を埋めた穴である。検出されたコンクリートの布基礎は、木造2階建の蚕糸試験場建物のものであるが、一部は撤去時に重機によって掘削されて穴に埋められ、その他が残されたものである。また、過去の公園整備として、植樹帯と園路との境にコンクリート製の縁石



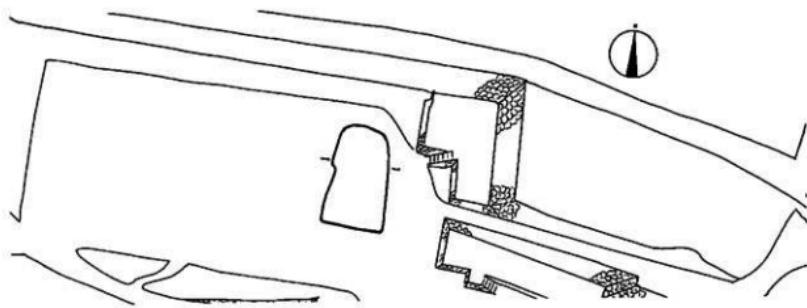
第27図 稲荷曲輪調査位置図



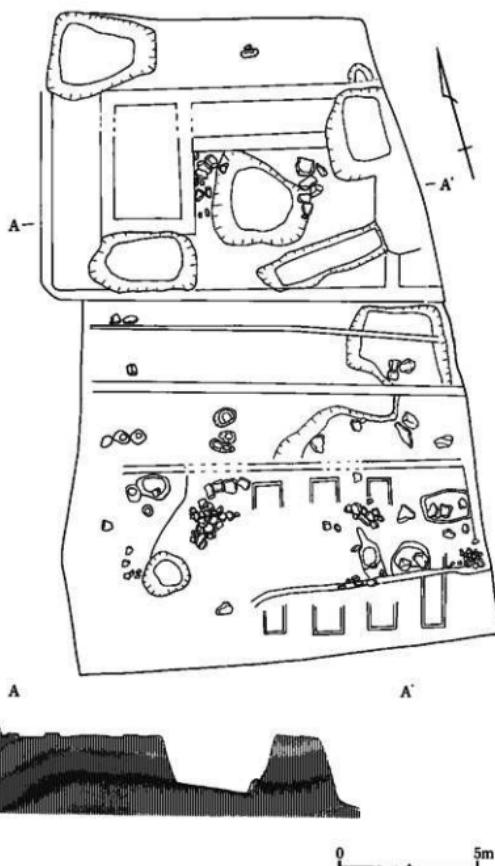
第28図 コンクリート布基礎とゴミ穴



第29図 稲荷曲輪調査風景



第30図 調査位置図



第31図 稲荷曲輪実測図

が設置されていた。この縁石の基礎もあり、さらには昭和61年度に開催された「甲斐路国体」に伴う公園整備で街灯電源の地中化が行われるなど、著しい擾乱を受けていた。このような状況のため、江戸時代の遺構の検出は不可能であったが、幾つかの瓦溜を検出した。この瓦溜には明治以後のものと江戸時代中期ごろに比定できるものなどがあり、出土する瓦の年代もそれぞれに特徴が認められた。一方、蚕糸試験場時代に掘られたごみ溜めの幾つかが確認されたが、出土する遺物は、近代陶磁器・ガラス破片などであった。

第31図に示した調査区全体図には、幅3m、深さ1.5~2m前後の長方形・楕円形の穴があるが、この穴が重複によってコンクリートの布基礎を埋めた穴である。直径30cm前後の柱穴と考えられる円形の穴も幾つか検出しているが、相関関係を把握するまでには至らなかった。

## 第4節 内松陰門・山ノ井門

### 1) 内松陰門の調査

銅門を西に下ると南側に山ノ井門、西に内松陰門がある。山ノ井門は二の丸への入り口であるが、内松陰門は星形曲輪への通路の最初の門である。この門を経ると北に折れて外松陰門を潜って星形曲輪に至る。今回の調査は、内松陰門周辺の石垣修復工事に先立って、門の礎石の残存状況を把握し、門復元の資料を得る目的で実施した。内松陰門西下の石段の調査は既に実施しているが、明確な痕跡を確認できず、門南側の袖石垣が石段の下に突きでていたことが確認されたため、当初の階段幅は現状より1m程狭かったことが明らかとなった。このような階段幅の拡張は、内松陰門の東上にある石段の調査でも確認されており、築城された16世紀末には、内松陰門から銅門への通路の階段幅が、現状より狭かったのである。拡張した時期については特定できないが、石垣の構築技法に大きな変化がないため、17世紀初頭に修築を加えたと伝えられる平岩親吉の時期ではなかろうか。

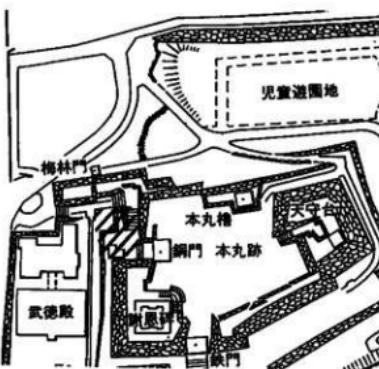
調査は小型の重機によって表土を20cm程度除去し、その後は人力による精査を行った。礎石と思われる平石が1個北側の袖石垣より検出された。この礎石に対応する南側の礎石を抜いた穴も検出できた。これらの礎石の控え柱の礎石については、検出できなかったが小石が円形に集中する遺構を2カ所確認し、これらを礎石の抜かれた跡と判断した。主柱穴の柱間は4.0m、控えは3.6mであったが、控え柱の方向は、左右の袖石垣の方向と並行であり、主柱穴との関係は直角ではない。このような例はごくまれに存在するようであるが、左右の石垣の勾配が異なるために生じた現象と考えられる。また、南側袖石垣の隅部分に、東に付け足した隅石が1個確認できた。この石の設置目的が理解できないが、何らかの、目的で石垣の隅石を東に延長したかったものであろう。

### 2) 山ノ井門の調査

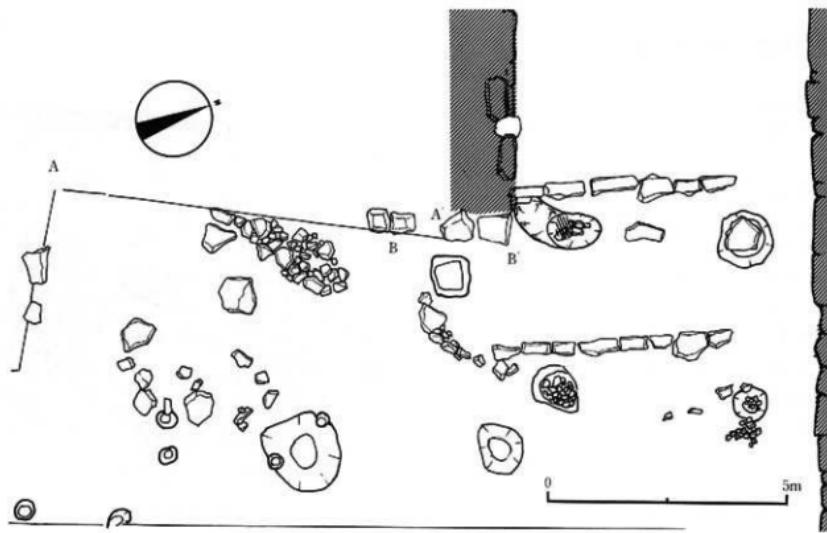
内松陰門の南に位置するこの門は、現在の武徳殿裏の集会場のすぐ東側にあったと考えられる。今回の調査は、東側にある帶曲輪の石垣修復工事に先立って行うもので、山ノ井門に関連する遺構が工事に影響を受けないかどうかの確認作業が中心となった。

東西6m、南北15mの範囲を調査区として、小型の重機によって表土を20cm程度剥ぎ取り、その後に人力による精査を行った。検出が想定される遺構は、門の礎石あるいは柱穴、門の袖石垣の根石などである。表土の除去後に最初に検出された遺構は、調査区中央部から瓦溜及び西側で集石と石列などであった。調査区南半分からは、大小の柱穴が多数検出された。明確な関連を想定できる柱穴はなかったが、深さが確認面から20cm程度と比較的一定したものが南側に集中していた。

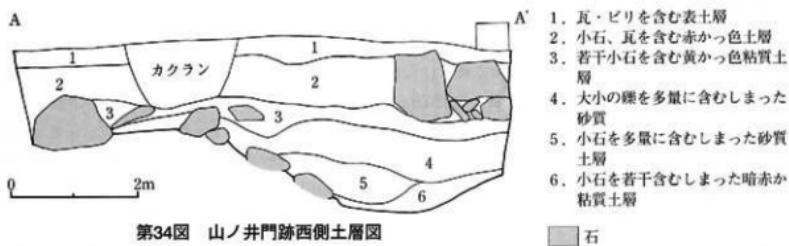
当初は石垣の裏栗石層の残存かと思われた西側の集石は、規模は南北3.5m、東西1.2m程度の広がりを示し、石の間に瓦を伴うもので、築城期の遺構と考えるより、修築後の遺構であろうが、性格については明らかにできなかった。内松陰門に隣接する調査区北西には、石垣の根石が長さ4m程度南に延びていたが、南端は明確に隅石をおいた痕跡は確認できない。調査区南端には、凝灰岩の地山を掘り込んで間知石を据えた石垣の根石が東西に2m程度検出された。その東側にも石は抜かれていたが、根石を据えた痕跡も確認できた。この根石列は、山ノ井門の東側の袖石垣の根石列と考えられる。調査区の北側では、南北に2列の石列を検出した。しかし、この石列は、明らかに近代以降の所産であり、使用されている石材の中には門の礎石であったと言えるタボ穴がある平石も含まれていた。



第32図 内松陰門調査位置図



第33図 内松陰門・山ノ井門跡実測図



第34図 山ノ井門跡西側土層図



第35図 調査区全景

## 第5節 銅門下石段

本丸西側に開いた虎口を銅門と呼ぶ。この名称は、鉄門や天守曲輪などと同様に柳沢吉保の時代に命名されたことが只樂堂年禄に窺える。この門は、東西5間・南北4間の構門で、本丸に向かって左側に潜り戸が付く。昨年度の調査で、礎石を確認しているが、火災による礎石の劣化が著しい。また、控え柱の礎石は2個抜かれていた。本丸側には北から南に石組み水路がコの字状に巡っていたと考えられる。門をでると石段を西側に下り、北側に折れて緩やかな階段を下り、再び西に向かって石段を下り、内松陰門に至る。

今年度の調査は、門の北側にある石段の撤去に伴うもので、絵図には、銅門西下に12段、北に向かって岩岐（がんぎ）13段と記されている。また、坂田家藏の絵図には、柵門が描かれている場所である。重機によ

って花崗岩の石段の石材を撤去し、人力による調査に入った。しかし、花崗岩の石材を設置するときに入れられた黄色の玉砂利が固く敷き詰められており、人力による作業の継続は困難と判断し、中央部に南北にベルトを残して再び重機による剥ぎ取りを行った。当初は安山岩による石段が設置されていたものと考えられ、今回撤去した花崗岩の石段は近代のものである。安山岩の石材を検出することはできず、確認した9段の段差はそれぞれ15cm～20cm程度で、段と段の間は幅が1m程度の緩傾斜となっている。検出した最上段の東西に安山岩を加工したときにできる破片が充填された柱穴が約3mの間隔をもって2個検出された。西側の①の柱穴は東西に長い楕円形を呈し、長軸1m、短軸0.6m深さは0.15mを測る。東側②の柱穴は南北側がコンクリート側溝によって切られているが、やはり東西に長い楕円形を呈し、長軸1m以上短軸0.7m深さは0.21mを測る。東側には大小3個の柱穴があり、③の柱穴は直径0.25mの円形を呈し深さは0.16m、④の柱穴は不整形で東西0.7m、0.4m深さ0.2mを測る。⑤の柱穴は直径0.5mの円形を呈し、深さは0.2m程度である。これらの柱穴については②と①が絵図にある柵門の柱穴と考えられる以外は性格や関連は不明である。

石段を据えた地盤の痕跡と考えられる階段状の遺構は、既に述べたとおり明確な規則性を確認することはできない。これは、近代になって設置された花崗岩の階段の工事のときに、旧地盤を削り取ったためであろう。石段の東側は本丸1番石垣の根石上に設置されたコンクリート側溝までを確認したが、コンクリート側溝の撤去は、根石を露出させる危険性が考えられたためそのまま残した調査となった。また、西側については、袖石垣が北側の一部に現存しているため、その石垣の根石を検出するため、南北に帯状に掘り下げた。その結果、南側に5m確認し、その南側ではセットバックした石垣の根石を検出した。しかし、明確な隅石などは存在していない。

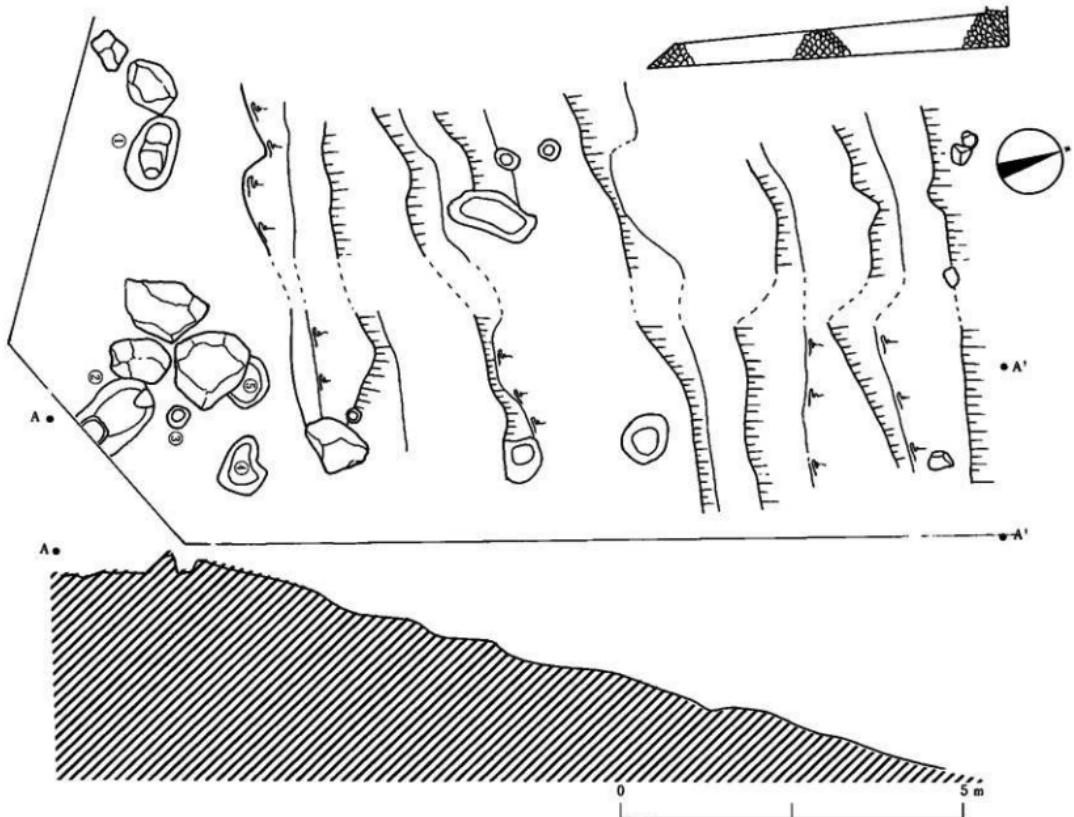
今回の調査では、石段及び袖石垣の修復についての十分なデータを得ることはできなかったが、袖石垣の高さは、現状より高く、天端は北側に傾斜していたものと考えられた。

調査終了後に、石段の施工に伴いコンクリート側溝の撤去が行われたが、撤去作業中に浮いた状態となる根石ができた。原因は側溝を設置するときに根石前面の地盤を0.5m程度掘り下げて現場で型枠を組んでコンクリートを打ったために根石が浮いた状態となったと判断された。長期間このような状態で根石地盤の解放は危険であると思われたため、やむを得ず再びコンクリートで根石を覆う方法で半分程度埋めることにした。

石段の修復工事は、翌年度以後の予定となり、埋め戻し作業を行い調査は終了した。袖石垣についての修復工事は、解体範囲を決定して、本年度中に解体作業を実施した。



第36図 銅門下位置図



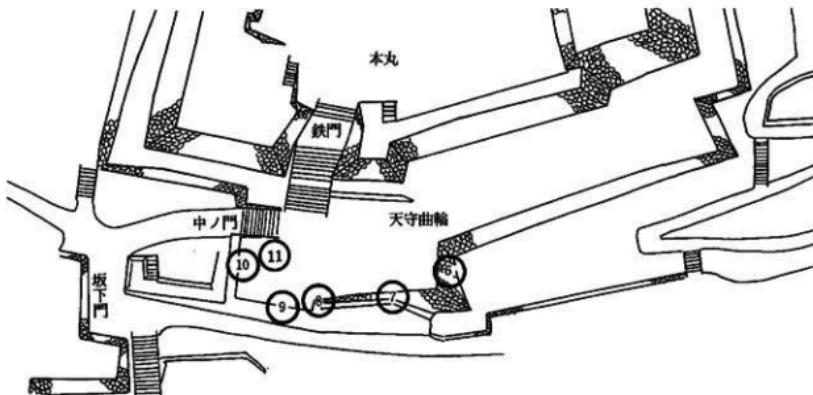
第37図 銅門北下石段跡実測図

## 第4章 石材調査

石材調査については、堀石垣の解体が行われた91年度（2年目）から実施して来ているが、解体対象のすべての石材の法量を記録することは不可能である。例えば築石が痛んでいたために石垣が壊れて解体となつた場合には、1個の石が数個に割れており、一部は既にはがれ落ちている場合が多い。また解体途中で破損する石も少なくないが、解体途中で原位置を保っている状態での計測も不可能ではないが著しい危険を伴うこともある。このようなため石材の法量については、解体対象の石材は、解体後に計測可能なものについてのみ計測した。なお、解体範囲の境界にあり残される石材については、控えを計測した。

今年度に行われた石垣修復工事に伴う石材調査箇所を曲輪ごとに記すと次の通りである。天守曲輪では、本丸南下に広がる6番石垣の上半分、7・8番石垣のすべて、9番石垣の東側半分、10・11番石垣のすべてである。内松陰門周辺では、内松陰門北側石垣の西側半分が行われた。これらの範囲での石材調査結果は、一覧表としてまとめ、各石垣面ごとに控えの長さを分布図として掲載している。特に7番石垣は中央部分の石材が著しく破損して、昭和40年代初めに崩落の危険があったため石垣の全面をコンクリート詰め石垣で覆う工事がなされた。このようなため、破損した石材も多く、さらには解体作業中に崩れ落ちてしまう石材もあり、十分な調査はできなかった。また、石材は全体的に大きいが、天端から2m程度下までは小さな石材が集中しており、後世に積み直されたものと考えられる。8番石垣は根石を除いて江戸時代中期に積み直されたものである。9番石垣の東側は、8番と同時期に積み直されたものである。10番・11番石垣は、昭和になってから積み直されたものである。

なお、この石垣解体工事中に、裏栗石の中から五輪塔・宝鏡印塔・石臼などの石像物が検出された。詳細は、遺物の章で記すが、築城以前のあった一蓮寺の関連遺物と考えることができようが、昨年度までの調査結果と同様であり、本丸より西側の石垣からは石造物の検出が多い。



第38図 石材調査全体図（今年度調査箇所）

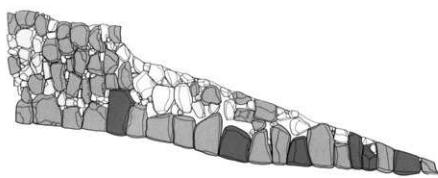
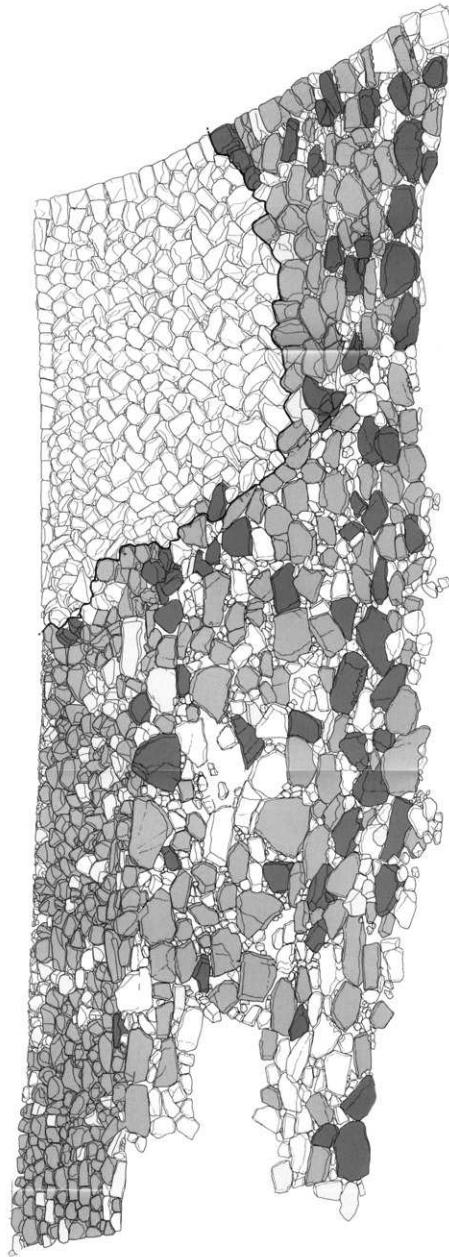
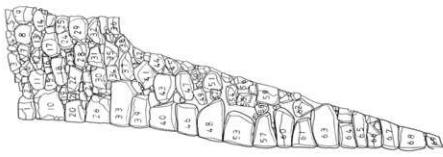
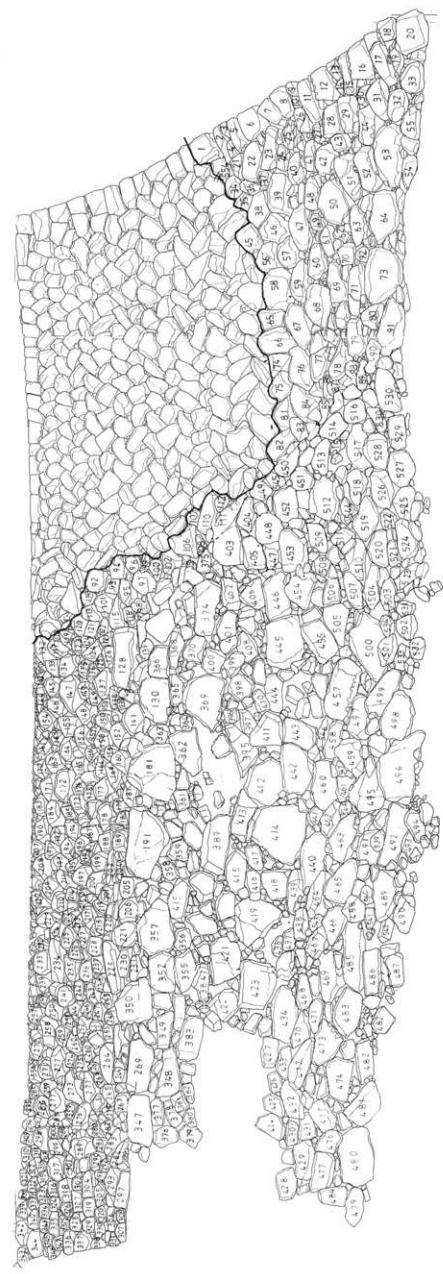
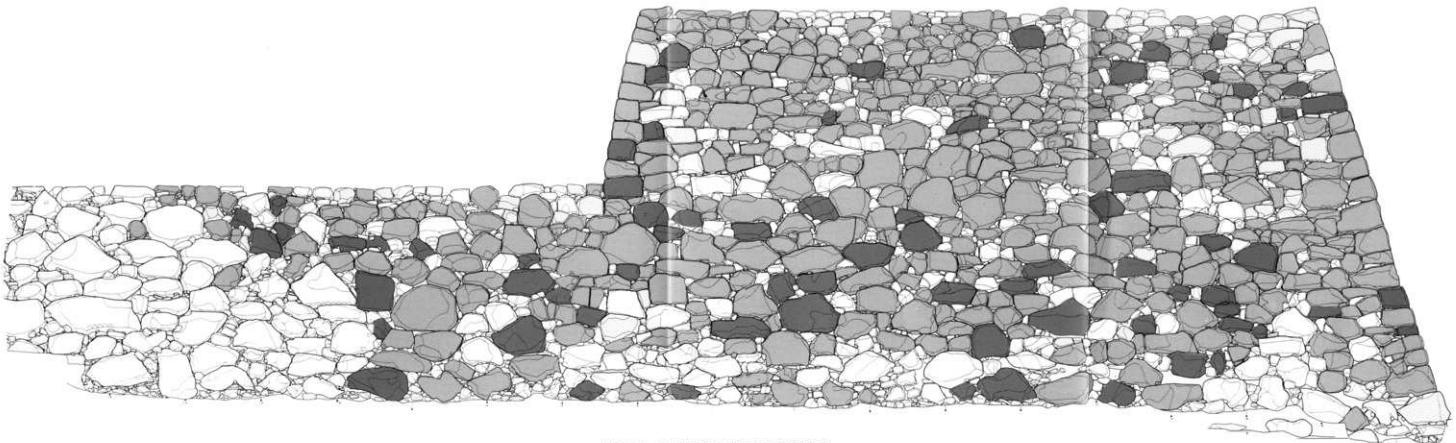
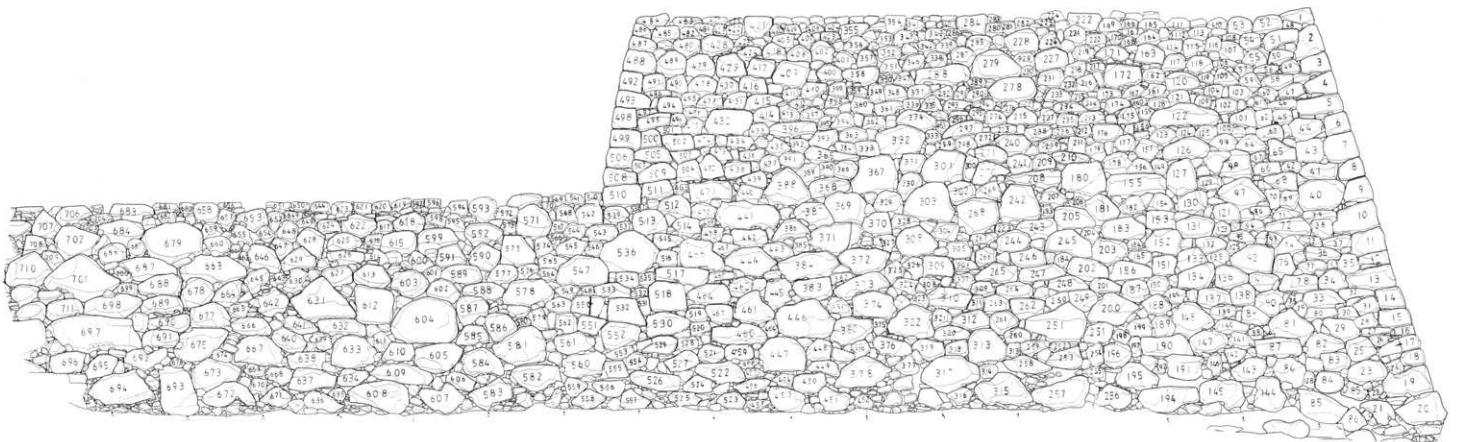
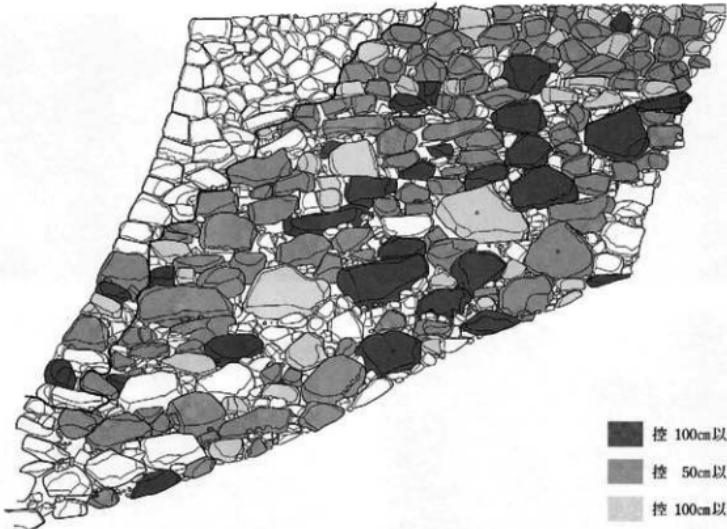
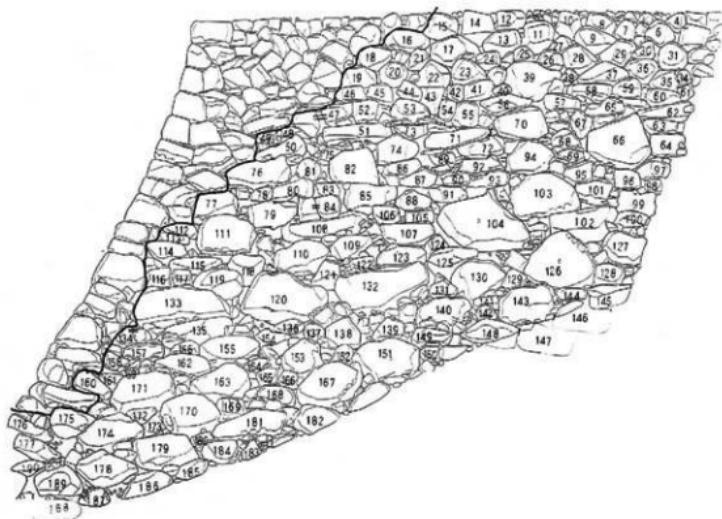


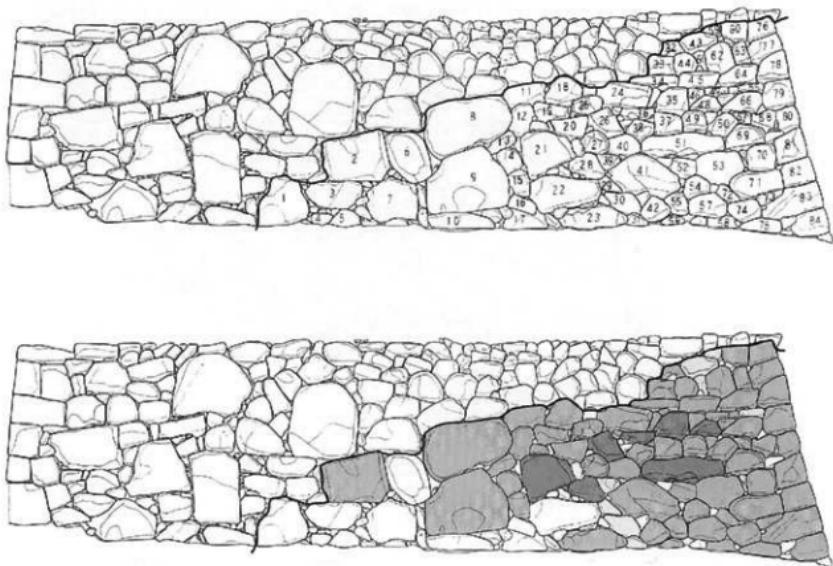
図39図 天守曲輪7番・8番石理石材分布図



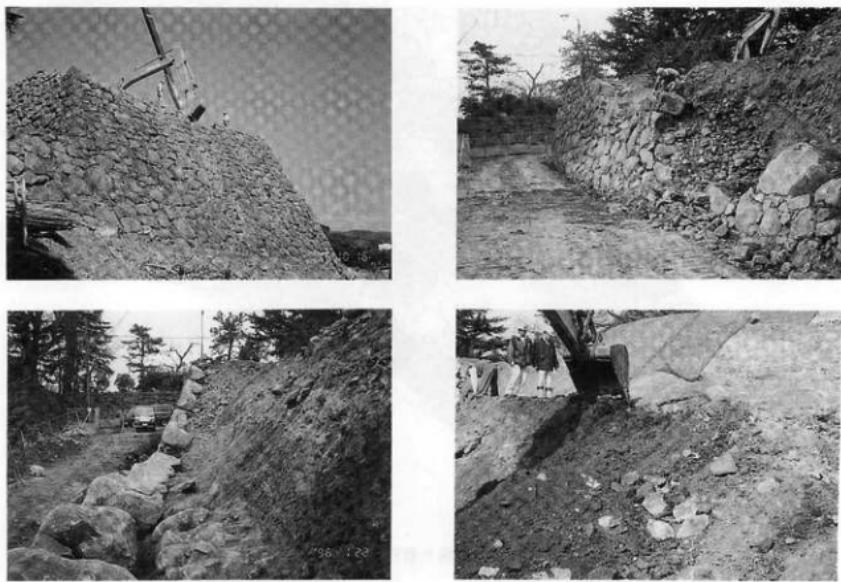
第40図 天守曲輪 9番石垣石材分布図



第41図 天守曲輪 6番石垣石材分布図



第42図 天守曲輪10番石垣石材分布図



第43図 天守曲輪No 9 石垣解体風景

# 天守曲輪曲輪別石材調査表

## 6番石垣

番号	面(幅)	面(横)	性丸	重量	矢穴
1	30	35	30		
2	20	45	40		
3	25	35	60		
4	35	25	50		
5	40	60	70		
6	45	50	60		
7	40	35	105		
8	30	60	50		
9	55	75	70		
10	50	50	80		
11	60	50	70		
12	35	50	60		
13	35	80	70	0.2	
14	45	65	50		
15	40	60	65		
16	40	70	60		
17	55	95	70	0.2	
18	40	65	50		
19	45	65	65		
20	40	50	60		
21	30	30	80		
22	50	45	70		
23	55	40	80		
24	25	35	50		
25	35	40	70		
26	30	35	90		
27	40	40	30		
28	45	50	55		
29	60	40	40		
30	35	40	65		
31	55	50	60		
32	30	50	30		
33	30	40	55		
34	30	35	60		
35	30	50	60		
36	40	50	60		
37	40	100	75	0.2	
38	25	35	35		
39	40	30	110	1.4	
40	20	35	40		
41	35	60	70		
42	35	30	40		
43	40	30	100		
44	40	40	50		
45	35	45	60		
46	30	50	50		
47	35	40	90		
48	20	40	75		
49	20	45	45		
50	40	80			
51	35	130	65	0.2	
52	40	60	70	0.4	
53	30	60	120		
54	35	20	60		
55	40	45	75		
56	30	100	80	0.4	
57	50	25	40		
58	75	20	40		
59	45	50	70		
60	25	60	50		
61	25	30	60		
62	30	110	110	0.3	

番号	面(幅)	面(横)	性丸	重量	矢穴
63	30	50	65		
64	45	75	65		
65	35	80	70		
66	80	80	145		
67	45	40	80		
68	40	60	80	0.1	
69	30	50	70		
70	65	100	110	0.6	
71	35	130	95	0.3	
72	40	90	60	0.1	
73	30	65	55		
74	60	85	70	0.2	
75	30	55	120	0.1	
76	60	125	80	0.4	
77	50	80	55	0.1	
78	20	40	65		
79	65	95	70	0.3	
80	45	40	90	0.1	
81	75	85	45	0.2	
82	25	35	45		
83	25	35	45		
84	45	45	50		
85	50	90	105	0.5	
86	30	65	90	0.1	
87	40	70	150	0.2	
88	35	60	80		
89	30	35	100		
90	20	50	55		
91	35	50	90		
92	35	80	75	0.1	
93	35	80	100	0.1	
94	70	100	110	0.6	12×10×5×3
95	45	60	85		
96	45	50	75	0.2	
97	40	60	65		
98	35	30			
99	45	90			
100	35	70			
101	40	70	80	0.2	
102	50	140	90		
103	85	130	100	1.2	
104	105	150	45	1.7	
105	30	60	70	0.1	
106	40	50	65		
107	45	100			
108	30	140	130	1.2	
109	55	75	80	0.2	
110	60	110	85	0.8	
111	85	110	75	1.0	13×10×7×5
112	30	70	70		
113	25	45	65		
114	45	70	35		
115	30	100	75	0.3	
116	35	45	100		
117	30	35	30		
118	40	60	55		
119	40	150	50	0.3	
120	90	150	50	1.9	
121	40	45	70		
122	50	100	115	0.9	
123	35	40	80		
124	40	90	90	0.1	

番号	面(幅)	面(横)	性丸	重量	矢穴
125	125	140	60		
127	80	80			
128	45	55			
129	35	60	40		
130	100	100	110	1.4	
131	35	55	35		
132	80	160	110	2.2	
133	80	190	75	2.0	
134	55	60	90	0.4	
135	30	70			
136	35	60			
137	25	45			
138	70	90			
139	35	25	75	0.1	
140	45	90	110	0.4	
141	40	145	90	0.9	
142	30	60	50		
143	55	100	90	0.6	
144	25	40	35		
145	35	75	100	0.4	
146	25	40	35		
147	30	45	75	0.1	
148	80	160	110	0.7	
149	55	60	90	0.4	
150	25	40	75	0.1	
151	65	90	120	0.4	
152	30	80	90		
153	20	50	40		
154	25	35			
155	80	105	110	0.8	
156	35	35	60		
157	90	75	90	0.8	
158	35	60	60		
159	70	100	70	1.1	11×10×7×3
160	65	110	70	0.4	
161	80	120	110	1.3	12×10×7×3
162	35	45	45		
163	40	90			
164	55	60			
165	50	75	80	0.3	
166	25	45	80		
167	70	110	70	1.1	11×10×7×3
168	40	75	40		
169	40	45	40		
170	40	70	80	0.4	
171	30	30			
172	90	130	85		12×10×6×4
173	60	150	80		15×10×7×4
174	65	115	90	1.1	
175	80	130	90	0.9	
176	40	150			
177					
178	40	60			
179	30	90			
180	45	90	80	0.7	
181	40	100	60		
182	35	50	55		
183	60	100	80	0.8	
184	70	105	50	0.8	
185	45	50	65	0.2	
186	45	50	65	0.2	
187	45	60	90	0.4	

7番石垣

番号	面(幅)	面(幅)	挖丸	重量	矢穴
1	55	70	60	0.4	
2	30	90	70		
3	35	40	60		
4	20	40			
5	25	90	45		
6	70	60	80		
7	40	55	90		
8	55	75			
9	25	20			
10	20	25			
11	40	100	150		
12	40	80	60		
13	30	40			
14	15	40			
15	30	90	90		
16	45	90			
17	45	120	60	0.4	
18	50	70			
19	30	60			
20	70	90			
21	40	70	60		
22	60	70	75	0.3	
23	40	165	110	1.4	
24	25	70			
25	35	65	90	0.2	
26	30	40	110		
27	20	55	30		
28	60	80	80		
29	45	100	110	1.2	
30	55	65	75	0.2	
31	25	40	120	0.6	
32	55	85	70	0.3	
33	50	80	110	0.7	
34	40	60	110	0.9	
35	90	110	70	0.4	
36	45	30			
37	30	35			
38	60	40	60		
39	55	90	95	0.7	
40	45	70	130	0.6	
41	35	85	70		
42	60	70	90	0.7	
43	40	40	75	0.1	
44	60	100	70		
45	25	40	60		
46	55	65	75	0.6	
47	60	120	80	0.9	
48	40	75	90	0.5	
49	30	45	65	0.1	
50	100	115	90	1.3	
51	60	110	70	0.5	
52	45	110	80	0.8	
53	90	160	100	2.5	
54	40	90	110		
55	60	80	75	0.2	
56	40	70	40	0.2	
57	45	55	65		
58	90	60	55		
59	45	45	60		
61	50	100	110	0.7	
62	55	45	70		
63	55	100	90	0.9	
64	90	130	120	1.7	
65	50	90	70	0.2	
66	70	90	80	0.2	
67	60	70	90		
68	60	110	70	0.8	
69	75	100	100		

番号	面(幅)	面(幅)	挖丸	重量	矢穴
70	50	50	100		
71	50	140	80		
72	40	40	90		
73	110	140	120	3.0	
74	55	60	80	0.4	
75	70	80	80	0.2	
76	60	50	80	0.3	
77	45	150	70		
78	55	120	140	2.7	
79	50	100	90		
80	60	60	95	0.5	
81	110	70	50	0.5	
82	80	55	80	0.2	
83	25	30	45		
84	70	75	120	1.4	
85	50	60	100	0.3	
86	15	70	50		
87	40	30			
88	45	40	100	0.1	
89	20	65			
90	30	70			
91	70	80	100	1.5	
92	20	65			
93	20	35	80		
94	40	50	75	0.5	
95	35	60	50		
96	40	45	50		
97	50	45	100	0.3	
98	45	35	55		
99	25	45	95	0.1	
100	50	55	100	0.6	
101	65	100	150	1.9	
102	35	45			
103	20	40			
104	25	55	35		
105	25	75	135	0.4	
106	75	55	70	0.4	
107	45	35	75	0.1	
108	20	40			
109	35	110			
110	40	95	100	0.7	
111	140	180	80	1.7	
112	30	30	110	0.1	
113	40	35			
114	35	30	45		
115	30	30	70		
116	30	50	50		
117	20	30	100		
118	30	35			
119	35	25	80		
120	35	45			
121	45	40	80		
122	25	50	60		
123	25	45	60		
124	40	40	90		
125	30	40	65		
126	20	50	80		
127	30	20	90		
128	45	150	55	0.6	
129	25	40	70		
130	45	115	35		
131	35	90	70	0.1	
132	35	70	60		
133	35	35	80		
134	40	50	55		
135	30	40	60		
136	25	35	60		
137	40	70	45		
138	20	60	75		
139	20	25			
140	45	25	55		
141	65	70	120	0.5	
142	20	30	70		
143	20	25	50		
144	20	40	40		
145	40	45	70		
146	40	40	70		
147	35	80	70		
148	40	45	45		
149	20	35	45		
150	40	40	40		
151	30	20	40		
152	40	60	50		
153	30	45			
154	30	50	60		
155	20	50	65		
156	30	50	50		
157	25	35	60		
158	45	40	70		
159	30	40	45		
160	45	40	70		
161	25	50	40		
162	40	40	50		
163	20	30	75		
164	30	55	65		
165	30	20	45		
166	25	20	40		
167	35	30	90		
168	40	45	75		
169	25	50	40		
170	20	45	50		
171	35	60	70		
172	35	75	90	0.1	
173	30	40	40		
174	25	20	60		
175	25	40	60		
176	20	40	70		
177	40	45	45		
178	30	65	40		
179	45	35	35		
180	30	35	35		
181	35	50	60		
182	20	25	45		
183	30	50	60		
184	40	65	60		
185	30	35	40		
186	35	40	50		
187	50	35	60		
188	30	50	60		
189	30	40	90		
190	35	45	65		
191	20	170	75	2.3	
192	30	35	70		
193	35	40	70		
194	40	50	60		
195	25	35	60		
196	25	40	75		
197	45	45			
198	15	40	50		
199	40	40	60		
200	40	50	45		
201	25	35	55		
202	20	35	70		
203	15	50	30		
204	10	45	45		
205	40	55	50		
206	50	50	50		
207	20	35	40		
208	30	65	60		
209	30	40	50		

番号	面(横)	面(縦)	強さ	重量	矢穴
番号	面(横)	面(縦)	強さ	重量	矢穴
210	20	40	50		
211	30	50	90		
212	30	40	45		
213	25	45	65		
214	30	50	40		
215	25	45	70		
217	30	45	50		
218	25	40			
219	30	30	55		
220	20	70	50		
221	60	55	60		
222	30	35	85		
223	25	35	85		
224	35	40	60		
225	40	50	55		
226	35	45	65		
227	30	50	60		
228	25	40	50		
229	25	135	90	0.2	
230	30	60	60		
231	20	65			
232	30	30	80		
233	40	50	55		
234	80	115	60	0.1	
235	30	55	60		
236	40	50			
237	30	35	45		
238	35	40	70		
239	40	45	40		
240	20	25	65		
241	45	55	45		
242	30	55			
243	25	55	60		
244	30	40	55		
245	25	40	60		
246	35	40	45		
247	20	40	50		
248	30	40	50		
249	25	35			
250	40	45	60		
251	25	30	60		
252	25	20	45		
253	40	35	55		
254	25	20	45		
255	30	45	55		
256	20	85	100	0.1	
257	40	40			
258	35	50	65		
259	30	40	50		
260	35	55	50		
261	25	55	70		
262	30	25	55		
263	25	30			
264	40	100	55		
265	35	50	50		
266	30	65	60		
267	40	45	60		
268	20	55	60		
269	25	120	50	0.8	
270	30	40	40		
271	30	40	60		
272	30	60	95	0.1	
273	30	80	80		
274	35	55	60		
275	20	40	50		
276	30	55	65		
277	30	75	55		
278	30	40	50		
279	40	30	40		
280	40	30	40		
281	30	30	65		
282	30	55	85		
283	30	70	60		
284	20	65	45		
285	25	35			
286	30	35	50		
287	20	35	50		
288	30	35	70		
289	40	50	65		
290	25	35	50		
291	30	25			
292	20	30	60		
293	40	70	70		
294	40	70	40	0.1	
295	20	35			
296	30	35	50		
297	20	30	45		
298	40	50	60		
299	30	40	50		
300	30	30	40		
301	30	55	60		
302	30	30	45		
303	25	40	45		
304	35	70	60		
305	40	50	50		
306	25	70	60		
307	35	50	45		
308	25	45	55		
309	30	35	55		
310	20	35	60		
311	30	30	60		
312	25	40	55		
313	25	25	50		
314	25	40	55		
315	30	40	60		
316	20	35	55		
317	40	70	70		
318	40	60	60		
319	35	50	55		
320	40	40	50		
321	20	40	65		
322	30	40	50		
323	25	40	60		
324	25	35	65		
325	30	40	60		
326	30	35	70		
327	30	50	55		
328	30	50	90		
329	40	45	55		
330	30	45	50		
331	20	40	65		
332	25	25	50		
333	30	30	80		
334	30	40	45		
335	20	60	35		
336	30	60	40		
337	45	60	60		
338	50	60	60		
339	30	35	50		
340	25	40	60		
341	30	35	60		
342	35	60	55		
343	25	50	40		
344	40	45	50		
345	25	30	50		
346	25	40	45		
347	30	40	60		
348	65	120	80	0.6	
349	40	90	80		
350	60	95			
351	55	45	95	0.1	
352	80	90	80	0.8	
353	105	150	90		
354	45	60	45		
355	50	95	60	0.2	
356	45	55	90	0.2	
357	55	120	70		
358	40	70	100		
359	50	55	70		
360	60	90	70	0.3	
361	40	60	85		
362	60	100			
363	60	60	85		
364	30	50	70		
365	40	90	130	0.7	
366	50	70	90	0.2	
367	65	100	85	0.6	
368	40	100	55		
369	120	140	60	2.6	
370	50	75	60	0.1	
371	35	35	75		
372	30	40			
373	20	50	50		
374	70	150	70	1.4	
375	65	70	110	0.6	
376	55	45			
377	30	60			
378	30	60			
379	50	55			
380	30	40			
381	35	60			
382	25	45			
383	50	95			
384	40	80	100	2.7	
385	40	75	80	0.4	
386	45	50	90	1.5	
387	30	40			
388	60	70	55		
389	60	120			
390	30	40			
391	40	55			
392	35	50			
393	50	95			
394	45	50			
395	65	100	100	1.5	
396	35	20			
397	30	45	45		
398	70	70	60		
399	50	55			
400	60	90	50	0.2	
401	50	75	70	0.2	
402	40	60			
403	50	85	100	0.6	
404	65	120	70	0.7	
405	50	70			
406	60	90	80		
407	40	45	50		
408	45	70			
409	40	75	80		
410	50	60	60		
411	70	70			
412	85	105			
413	45	115			
414	125	150	70		
415	60	120	60		
416	40	70			
417	35	55			
418	60	70	35		
419	120	160	75		

番号	面(幅)	面(幅)	挖丸	底丸	矢穴
420	45	80	75		
421	65	120	70	3.3	
422	90	85	80	0.4	
423	150	80	90	0.5	
424	60	60			
425	50	50	70		
426	30	50			
427	50	55	70	0.2	
428	50	85	45	0.3	
429	50	90			
430	30	55			
431	40	60			
432	45	90			
433	40	70			
434	75	75	80	0.3	
435	40	60			
436	25	40			
437	20	50			
438	60	70	75		
439	65	120	75		
440	80	85	90	0.4	
441	60	55	80	0.3	
442	80	85	90	0.6	
443	65	110	100		
444	60	90	75		
445	110	130	70		
446	75	150	110	2.4	
447	40	70	85	0.1	
448	80	75	75	0.8	
449	55	55	65	0.1	
450	50	65	90		
451	60	45	80		
452	60	70	80	0.5	
453	65	120	70	1.1	
454	80	85	80	0.6	
455	55	50	80	0.4	
457	90	170	100	2.7	
458	70	90	70	0.9	
459	110	90	100	1.1	
460	90	140	95	1.2	
461	80	110	85	0.3	
462	80	110	90	1.2	
463	90	150	100	0.8	
464	80	120	100	1.0	
465	100	100	70	0.9	
466	70	80	90		
467	70	60	70	0.6	
468	65	110	80	0.7	
469	60	110	80	0.6	
470	60	80	100		
471	75	30			
472	45	110			
473	60	100			
474	60	95			
475	80	120	70	0.8	
476	80	70	100	0.7	
477	80	85	90	0.6	
478	50	40	45		
479	35	80	35		
480	60	120	120	0.9	
481	70	110	110	0.6	
482	40	160	90	0.4	
483	75	110	75	0.7	
484	45	60	90	0.3	
485	60	140	90	1.2	
486	45	85	50	0.4	
487	30	70			
488	60	140	90	0.3	
489	45	110	110	1.0	
490	80	40			

番号	面(幅)	面(幅)	挖丸	底丸	矢穴
491	70	50			
492	60	100	110	1.3	
493	50	70			
494	45	70			
495	130	140	130	4.7	
496	100	165	65	2.6	
497	50	100			
498	75	115	80	1.1	
499	80	130	115		
500	80	140	150	3.0	
501	45	60			
502	45	50			
503	30	70			
504	50	100	100	0.6	
505	65	70	110	0.6	
506	30	35			
507	45	110	90	0.6	
508	40	40	70	0.1	
509	60	85	85	0.9	
510	50	100	50	0.4	
511	45	45	105	0.5	
512	90	130	80	2.2	
513	55	90	90	0.5	
514	60	50	90	0.2	
515	25	50	45		
516	50	50			
517	50	80	100	1.5	
518	50	100	70	0.2	
519	45	95	105	0.5	
520	55	115	90		
521	30	70	70		
522	45	50	65		
523	55	60	50		
524	55	105	115	0.8	
525	50	80	85	0.5	
526	50	80	65		
527	60	100	90		
528	70	90	115	0.6	
529	40	80	75		
530	45	155	80	1.1	
531	40	35	65		
532	35	45			
533	40	40	70	0.3	
534	45	50	95		
535	35	45	20		
536	60	70	100		
537	50	85	80	0.3	
538	50	60	70	0.7	
539	35	45	35		
540	25	25	30		
541	25	55	55		
542	35	55	70		
543	25	50	85		
544	40	60	100	0.6	
545	35	60	75	0.5	
546	35	55	40		
547	30	45			
548	30	40	45		
549	40	40			
550	35	40			
551	35	50			
552	35	75	50	0.1	
553	45	50	65		
554	70	120	130	1.4	
556	130	140	50	1.6	
557	30	40	60		
558	30	60	95		
559	20	40	50		
560					

## 8番石垣

番号	面(幅)	面(幅)	挖丸	底丸	矢穴
1	45	45	75	0.3	
2	25	45	65		
3	25	50	55		
4	30	35	40		
5	25	50	50		
6	40	35	60		
7	30	45	40		
8	45	50	45		
9	50	60	50		
10	35	75	80	0.6	
11	40	50	50		
12	40	55	45		
13	60	80	45		
14	70	65	50		
15	25	40	45		
16	20	45	50		
17	40	60	40		
18	35	60	50		
19	20	80	40		
20	55	50	80	0.2	
21	20	25	45		
22	40	60	70		
23	20	45	55		
24	40	45	60		
25	35	65	55		
26	65	65	55		
27	20	60	50		
28	35	65	55		
29	40	70	70		
30	40	70	70		
31	35	50	50		
32	30	70	70		
33	55	110	120		
34	25	40	50		
35	40	55	65		
36	35	60	75		
37	25	40	50		
38	35	45			
39	50	85	65		
40	70	65	80		
41	50	70			
42	25	55			
43	55	70			
44	40	60			
45	30	50			
46	55	85	70		
47	50	70			
48	70	95	70		
49	25	50	30		
50	25	30	70		
51	60	50	50		
52	25	30	45		
53	75	90	115		
54	30	50			
55	50	30	65		
56	50	30	70		
57	60	70	130		
58	40	30	50		
59	60	50	60		
60	45	95	80		
61	65	45	45		
62	65	45			
63	65	100	65		
64	40	70	80		
65	35	60	65		
66	40	70	105		
67	40	80	55		
68	60	65	120		
69	50	45	80		

## 9番石垣

番号	面(幅)	面(高)	残丸	重版	矢穴
1	45	85	60	0.1	
2	80	80	80	0.3	
3	50	80	50		
4	55	80	75	0.1	
5	50	120	110	1.6	
6	55	65	85	0.3	
7	75	70	85	0.4	
8	70	70	85	0.4	
9	60	70	95		
10	75	115		1.5	
11	60	85	95		
12	45	80	95	0.5	
13	60	120	85		
14	50	65	100	0.2	
15	40	80	70	0.2	
16	35	60	100		
17	40	105	70		
18	40	55	80		
19	60	120	65		
20	50	80	45		
21	60	80			
22	40	35			
23	65	95	90	0.5	
24	40	45	70		
25	70	75			
26	30	50	80	0.1	
27	20	80	60		
28	40	55			
29	60	80	70	0.4	
30	30	50	70	0.2	
31	45	65	70	0.3	
32	30	95	85	0.2	
33	50	80	70		
34	60	75	60		
35	55	60			
36	35	65	80	0.4	
37	35	75	75	0.2	
38	50	55	65		
39	25	90	70	0.2	
40	85	120	70		
41	50	90	85		
42	30	50	60		
43	60	70	50		
44	80	65	70		
45	35	40	100		
46	25	75	75		
47	40	75	120		
48	20	50	45		
49	40	50	60		
50	35	60	80		
51	40	90	45	0.1	6×5×5×3
52	45	75	45		
53	65	50	50	0.1	
54	45	55	40		
55	45	55	50		
56	20	65	65		
57	25	45	70		
58	35	80	70		
59	40	55	60		
61	30	40	70		
62	45	45	50		
63	35	65	75		
64	50	80	70		
65	60	70	60		
66	35	70	50		
67	20	80			
68	45	80	75	0.1	
69	30	60	45	0.1	

番号	面(幅)	面(高)	残丸	重量	矢穴	番号	面(幅)	面(高)	残丸	重量	矢穴
70	45	65	55			142	40	55	60		
71	30	65	50	0.2		143	55	100			
72	55	65	55			144	85	70			
73	30	60	90	0.1		145	70	115			
74	45	70	75	0.2		146	55	40	140	0.3	
75	35	30				147	65	95	90	0.4	
76	55	55	85	0.3		148	80	100	80	1.2	
77	40	75	80	0.2		149	50	55	80		
78	45	100	65			150	50	55	80		
79	45	35				151	55	65	90	0.3	
80	30	75	130	0.3		152	65	90	85	0.4	
81	80	115				153	60	70	60	0.3	
82	65	100	90	0.5		154	45	50	70		
83	45	60	80	0.2		155	60	150	135	1.1	
84	60	70	80			156	40	55			
85	40	50				157	60	60	65		
86	55	130	60	0.3		158	25	40	65		
87	55	120	80			159	40	35	60		
88	35	40	50			160	30	55	60		
89	50	75	70			161	35	60	65		
90	65	70	65	0.6		162	45	60	65		5×4×5×2
91	50	65	65	0.2		163	60	80	100	0.3	
92	45	85	100	0.3		164	35	60	65		
93	35	65	35			165	30	70	30	0.1	
94	30	60	55			166	20	40	50		
95	35	70	80	0.1		167	20	55	50		
96	25	75	30			168	25	35	50		
97	80	120	70	0.7		169	40	60	45		
98	70	110	60	0.4		170	25	40	60		
99	30	45	70			171	90	45	55		
100	30	45	70			172	65	95	100		
101	50	70	70			173	30	65	55		
102	40	55	55			174	40	65	85		
103	40	55	50			175	40	55			
104	40	45	65			176	50	80	90	0.3	
105	55	65	80	0.1		177	50	55	70		
106	20	55	50			178	60	60	65		
107	45	60	70			179	45	50	90		
108	25	45	45			180	90	115	60	0.4	13×6×10×4
109	35	45	55			181	80	95	100	0.5	
111	30	45	50			182	50	60	80		
112	40	55	55			183	65	115	80	0.6	
113	40	55	65			184	40	45	70		
114	45	65	55			185	30	45	50		
115	50	90	70	0.1		186	55	105	100	0.5	
116	40	60	45			187	30	45	50		
117	50	55	80			188	60	80	85	0.2	
118	90	45	55			189	55	55			
119	65	95	100			190	55	125	90		
120	65	80	60			191	60	110	110	1.5	
121	45	65	55			192	50	30			
123	50	55	55			193	30	30	35		
124	30	65	55			194	75	160	80		
125	35	60	65			195	70	110	85		
126	50	120	40	0.4		196	70	70	90	0.6	
127	105	70	60			197	55	25	60		
128	40	30				198	40	50	40		
129	35	45	95			199	50	65	140	0.9	
130	70	75				200	95	125	95	1.4	
131	55	95	70	0.4		201	40	85	80	0.5	
132	45	80	100			202	70	105	75	0.2	
133	55	70	75	0.2		203	50	90	60	0.5	
134	60	95	80	0.3		204	35	45	70		
135	35	45	95	0.1		205	65	100	80	0.5	
136	60	85	60			206	30	40	60		
137	50	75	100	0.9		207	45	70			
138	55	60	70	0.2		208	40	150	90		
139	35	65	100			209	45	60	60		
140	35	90	130	0.4		210	30	95	65		
141	40	55	70			211	50	40	65		

番号	面(幅)	面(幅)	寸法	重量	矢穴
212	40	60	55		
213	35	60	60		
214	40	50	65		
215	30	45	50		
216	50	55	50		
217	30	50	65		
218	45	55	55		
219	50	55	75		
220	40	50	60		
221	50	60	50		
222	50	90	70		
223	25	45	40		
224	25	50	55		
225	25	50	55		
226	55	40	50		
227	65	80	60	0.2	
228	65	85	100	0.3	
229	30	50	60		7×5×6×4
230	30	40	70		5×4×4×6
231	45	65	55		
232	40	40	55		
233	40	40	55		
234	30	85	60		
235	40	50	65		
236	25	55	70		
237	45	50	70		
238	40	70	70		
239	40	55	60		
240	50	80	65		
241	55	70	75		
242	90	100	70	1.1	
243	45	95	85	0.1	
244	60	80	70	0.2	
245	70	115	75	0.4	
246	50	95	60	0.2	
247	70	115	100	0.2	
248	50	100	95	0.4	
249	50	70			
250	35	60	60		
251	90	160	110	3.3	
252	30	30	25		
253	65	90	90	1.1	
254	70	45	60	0.1	
255	40	50			
256	60	100	115		
257	85	140	75		
258	40	20			
259	40	70			
260	35	70	75	0.1	
261	45	60	65		
262	50	90	55	0.2	
263	35	40	90	0.1	
264	35	95	100	0.4	
265	55	110	90		
266	45	50	75	0.2	
267	30	40	85		
268	90	115	90	1.0	
269	45	55	70		
270	45	80	75		
271	30	70	70		
272	85	110	70		
273	30	70	70		
274	40	50	70		
275	45	75	60		
276	40	50	70		
277	30	60	85		
278	65	120	60	0.5	
279	85	120	85	0.7	
280	30	45	50		
281	35	35	50		

番号	面(幅)	面(幅)	寸法	重量	矢穴
282	40	50	40		
283	30	45	50		
284	50	80	60		
285	45	70	60	0.1	
286	30	40	50		
287	35	50	65		
288	55	125	85	1.2	
289	25	50	45		
290	30	60	65		
291	40	30	65		
292	35	50	65		
293	30	70	65		
294	30	60	60		
295	35	40	70		
296	35	50	60		
297	40	100	100		
298	40	45	50		
299	60	30	50		
300	60	30	50		
301	85	110	70		
302	55	60	60		
303	95	110	70	1.1	
304	50	65	75	0.2	
305	30	70	70		
306	50	65	75	0.2	
307	45	50	90		
308	35	55	120	0.3	
309	55	70	65		
310	60	110	110	1.0	
311	40	35	50		
312	50	95	90	0.2	
313	95	90	100	1.3	
314	40	40	50		
315	90	140	100		
316	50	50	65	110	
317	100	150			
318	40	60	90	0.1	
319	60	70	90	0.5	
320	45	95	70	0.3	
321	50	40	80		
322	80	100	80	1.2	
323	35	40	90	0.1	
324	40	55	75	0.2	
325	55	50	95	0.1	
326	40	55	75	0.2	
327	50	30	60		
328	30	75	105	0.3	
329	60	65	70	0.2	
330	55	60	70		
331	60	60	55		
332	55	60	70		
333	40	55			
334	30	45			
335	40	50	60		
336	30	40	55		
337	45	60	60		
338	40	55	50		
339	40	50	60		
340	20	50	50		
341	30	45	60		
342	40	55	65		
343	40	60	50		
344	50	60	85		
345	30	35	45		
346	45	55	70		
347	45	55	50		
348	40	55	50		
349	50	35	90		
350	35	40	50		
351	45	50	65		

番号	面(幅)	面(幅)	寸法	重量	矢穴
352	30	60	70		
353	35	40	60		
354	50	50	60	0.1	
355	35	70	70	0.2	
356	30	40	65		
357	40	50	60		
358	45	55	80		
359	25	50	80		
360	40	55	60		
361	35	75	60		
362	35	55	60		
363	35	70	60		
364	30	45			
365	35	140			
366	50	55	50		
367	100	100	55		
368	30	50	70		
369	80	80	80	0.7	
370	60	65	90		
371	95	125	60	0.8	
372	65	130	100	0.8	
373	40	50	65		
374	75	105	80	0.4	
375	50	30	60		
376	50	80	90	0.7	
377	55	60			
378	85	150			
379	50	50			
380	75	100	95	0.7	
381	45	60	80	0.1	
382	45	100	95		
383	50	120	100	2.5	
384	75	160	80	1.2	
385	40	60	80	0.2	
386	55	60	70	0.7	
387	60	80	130	1.2	
388	100	100	70		
389	55	60	60		
390	40	40	60		
391	40	60	55		6×5×6×3
392	40	55			
393	35	55	60		
394	45	40	60		
395	80	130	110		
396	35	120	80		
397	50	55	50		
398	40	35	60		
399	45	45	45		
400	50	70	80	0.1	
401	45	40	50		
402	50	65	50		
403	25	70	80		
404	25	40	40		
405	40	50	55		6×7×4×5
406	25	50	45		
407	45	45	55		
408	50	65	60		
409	60	90	85	0.4	
410	40	65	55		
411	30	45	65		
412	30	50	80		
413	40	50	60		
414	45	70	80		
415	30	95	55		
416	40	75	50		
417	50	65	50	0.1	
418	45	65	60	0.1	
419	30	40	60		
420	30	45	60		
421	65	70	65	0.1	

番号	面(幅)	面(幅)	形状	重量	穴
422	30	50	50	0.1	
423	30	40	65	0.1	
424	30	60	70		
425	15	45			
426	20	65	60	0.1	
427	30	50	70		
428	50	60	70		
429	70	80	80	0.2	
430	45	55	60		
431	50	60	55		
432	70	120	95		
433	40	50	70		
434	35	55	70		
435	40	55	75		
436	30	80	75		
437	45	55	60		
438	45	70	60		
439	40	70	60		
440	35	60	60		
441	80	155	55	1.1	
442	45	90	110	0.9	
443	40	70	70	0.2	
444	85	110	65	0.9	
445	70	60	100		
446	105	145	110	2.2	
447	65	105	60	1.0	
448	60	65	80	0.4	
449	35	90			
450	55	90			
451	55	80	95		
452	40	50	95		
453	70	100	90		
454	40	50	90		
456	35	90			
457	25	55			
458	25	55			
459	50	65	90	0.4	
460	65	130	100	1.1	
461	90	90	50	0.6	
462	40	55			
463	35	35	50		
464	65	105	80		
467	35	60	90	0.1	
468	20	70			
469	30	35			
470	45	60	90		
471	60	110			
472	60	60	60		
473	40	50	70		
474	35	55			
475	45	40	50		
476	25	60	50		
477	35	60	50		
478	45	55	75		
479	50	65	85	0.3	
480	40	70	60		
481	30	30	50		
482	30	50	70		
483	25	70	50	0.1	
484	30	70	50	0.2	
485	50	75	90	0.7	
486	35	50	55		
487	40	65	60		
488	60	85	45	0.1	
489	65	70	105		
490	20	70			
491	20	70	105		
492	65	70	50	0.1	
493	50	70	50	0.1	
494	40	60	45		
495	25	40	45		
496	40	80	65		
497	55	90	55		
498	60	60	90		
499	55	90	70		
500	50	55	100		
501	20	70			
502	45	75	45		
503	25	80	80		
504	55	60	55		
505	40	85	50		
506	60	85	120	0.6	
507	55	110	50		
508	50	90	80		
509	50	85	65		
510	55	100	105	1.0	
511	45	60	80	0.1	
512	50	75	90	0.1	
513	70	90	100	0.7	
514	50	70	125		
515	40	75	120	0.2	
516	50	50	50		
517	45	140	80	0.7	
518	80	100	85		
519	35	50	70		
520	40	55	70		
521	40	60	70		
522	60	120			
523	45	70	85		
524	50	80			
525	40	100	110		
526	50	130			
527	50	95			
528	30	60	90		
529	55	105	90		
530	15	35			
531	55	30	40		
532	25	45	80	0.2	
534	40	60	110	0.2	
535	35	40	80		
536	115	130	90	2.1	
537	30	35	50		
538	20	45	50		
539	25	50	65		
540	35	40	70		
541	35	40	45		
542	50	65	45	0.2	
543	40	80	55	0.2	
544	35	50	55		
545	50	70	55	0.2	
546	45	40	60		
547	75	125	90	1.1	
548	30	45	25		
549	25	45	80		
550	35	40	25		
551	40	65	115		
552	70	105	90	1.1	
553	30	75			
554	45	50			
556	45	55			
557	60	60	50		
558	60	90	120		
559	60	60			
560	55	110			
561	45	105	80	0.5	
562	70	50	80	0.2	
563	40	65	115		
564	35	40	90		
565	35	70	50	0.1	
566	30	35	60		

番号	面(幅)	面(幅)	寸法	重量	矢穴
648	45	40	80	0.3	
649	25	40	60		
650	25	40			
651	20	65	50		
652	30	30	100		
653	55	75	60	0.2	
654	30	40			
655	35	40	100	0.2	
656	15	60	85		
657	60	45	60		
658	60	65	40		
659	45	50	70		
660	40	55	40		
661	20	30	60		
662	50	25	40		
663	65	160			
664	60	60	60		
665	35	45			
666	50	90			
667	80	90			
668	35	70			
669	40	60			
670	50	45			
671	60	80			
672	40	45			
673	80	90			
674	30	50			
675	90	120			
676	35	30			
677	65	80			
678	65	75			
679	95	150			
680	30	30	70		
681	15	60	75		
682	25	45	70		
683	30	110			
684	55	90			
685	45	90	80	0.3	
686	50	60			
687	30	35			
688	55	110			
689	50	100			
690	35	105			
691	50	75			
692	55	110			
693	55	130			
694	80	170			
695	60	60			
696	60	90			
697	95	220			
698	55	140			
699	30	35			
700	30	35			
701	95	140			
702	20	40			
703	20	40			
704	30	50			
705	25	30	70		
706	35	80	50		
707	70	60			
708	40	55			
709	30	50			
710	70	80			
711	95	140			

### 10番石垣

番号	面(幅)	面(幅)	寸法	重量	矢穴
1	110	95		12×9×5×3	
2	85	115	60	11×10×3×6	
3	55	115			
4	20	40			
5	30	60			
6	95	75			
7	85	100			
8	90	170	65	1.6	
9	130	165	80		
10	25	130			
11	35	90	65		
12	65	40	60		
13	20	60	55		
14	50	50	55		
15	50	50	60		
16	25	55			
17	35	85			
18	55	75	65		
19	35	65	80		
20	40	65	70		
21	90	105	100		
22	60	140	90		
23	50	130			
24	45	45	70	0.2	
25	35	60	65		
26	50	70	120	0.2	
27	45	45	70		
28	50	70	100		
29	25	45			
30	40	80	40		
31	25	45	40		
32	20	30	70		
33	35	50	55		
34	15	90	75		
35	45	60	100	0.3	
36	20	65	105		
37	40	80	75		
38	40	55	60		
39	40	30	30		
40	40	60	80		
41	70	140	90		
42	40	55	80		
43	35	75	45		
44	40	45	50		
45	30	80	50	6×4×4×5	
46	25	30	50		
47	20	30	50		
48	25	45	100		
49	40	45	75		
50	40	45	65		
51	40	160	110	0.8	
52	25	30	45		
53	75	90	115		
54	35	50	95		
55	35	50	55		
56	20	50	55		
57	50	80	60		
58	25	60	60		
59	20	35	45		
60	30	20	45		
61	60	60	75		
62	45	30	50		
63	40	75	45		
64	15	50	45		
65	40	70	50		
66	20	30	70		
67	30	45	70		
68	30	45	70		
69	40	70	60		

番号	面(幅)	面(幅)	寸法	重量	矢穴
70	50	55	70		
71	45	105	65		
72	25	45			
73	20	50	90		
74	45	65	60		
75	30	85	55		
76	35	55	50		
77	40	60	65		
78	65	105	70		
79	60	65	65		
80	50	50	70		
81	60	65	70		
82	55	70	90		
83	60	125	75		
84	50	80	90		

## 第5章 出土遺物

今年度の調査で出土した遺物は、近代以後の陶磁器・石造物・金箔瓦などである。これらの遺物は、調査箇所によってそれぞれ片寄って出土しており、この出土状況が曲輪の性格や廃城後の利用形態などを物語っているものと考えられる。中でも石造物については、その傾向が顕著である。例えば天守曲輪石垣裏からは、五輪塔や石臼などが多く出土している。陶磁器については、鍛冶曲輪の調査では調査区全体から出土している。稻荷曲輪では、瓦溜めと近代以後のゴミ溜めから出土した遺物が大半を占めている。銅門周辺の調査では、遺物の出土は少なかった。しかし、山ノ井門では、大小の瓦溜め及び石垣裏から多くの石造物が検出された。

### 1 金箔瓦

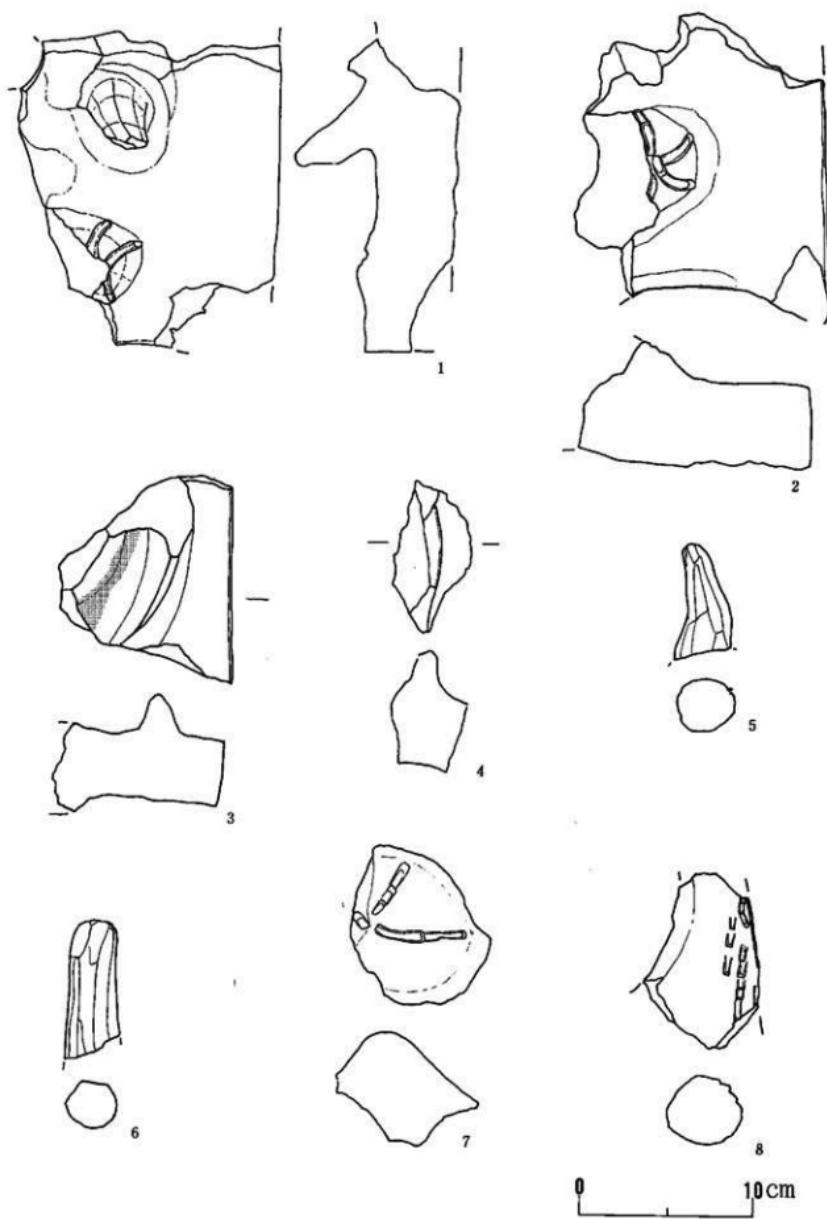
N01は天守曲輪井戸より出土した鬼板瓦の破片である。鬼面の右下顎の牙と顎髭部分で、牙及び顎髭の先端を欠いている。牙の部分には金箔が施されており、大きさは縦17.5、幅15cmを測る。N02も天守曲輪井戸から出土した同様の破片で、縦16、横14cmを測る。N03も天守曲輪の井戸から出土した鬼板瓦の破片であるが、図面のスクリーントーンの範囲には朱漆が施されており、大きさは縦12、横10cmを測る。部位は鬼面の唇の一部であろう。N04もN03と同様に天守曲輪井戸からの出土で、部位も鬼面の唇の一部で、縦8.7、横8cmを測る。N05は銅門南側から出土した鬼面の牙の先端部分と推測される破片で、長さ6、最大幅3.2cmを測る。N06も銅門南から出土したもので、N05と同様の破片と考えられ、長さ8、最大幅3cmを測る。N07も銅門南から出土した鬼面の髭の破片である。8.7×8cmを測る。N08も銅門南出土の鬼面の髭の一部で、6.5×10cmを測る。

### 2 陶磁器

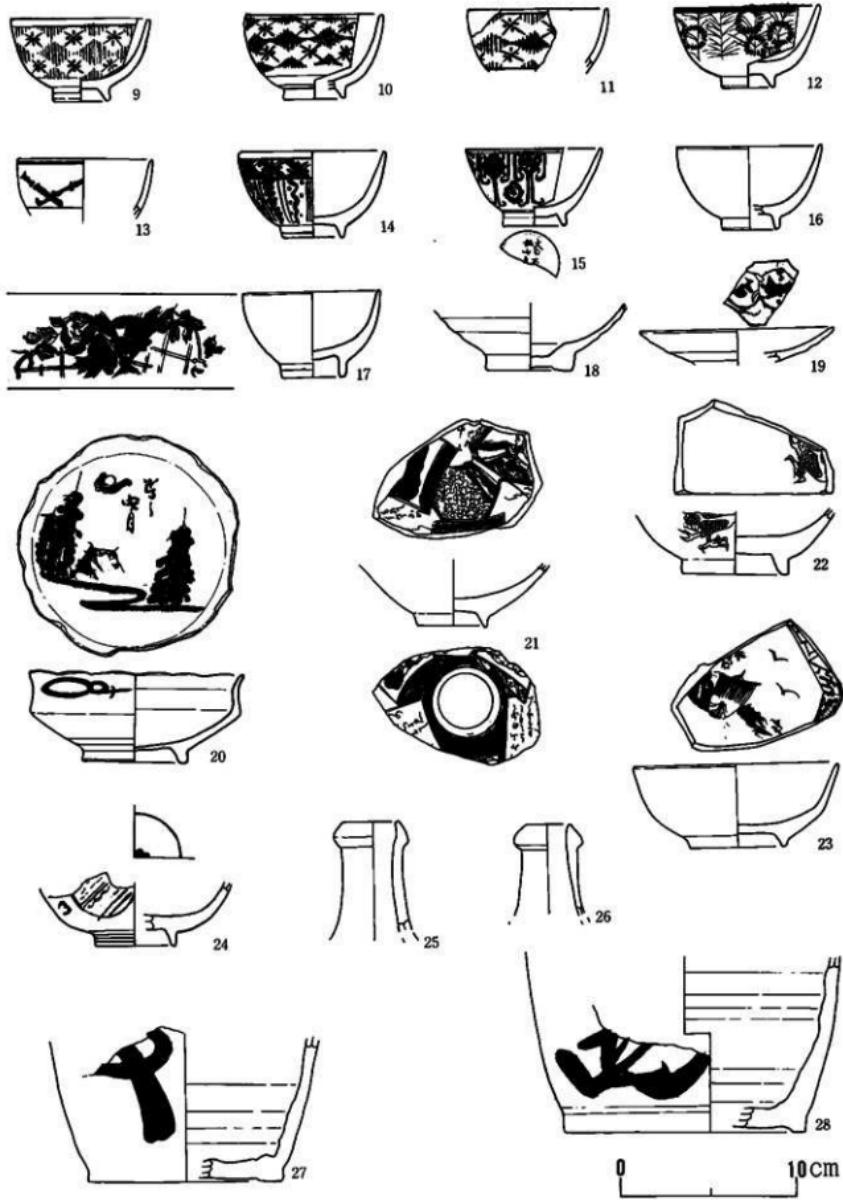
N09～17・N029～35は天守曲輪から出土した染付茶碗である。口径は8.2～9cm、器高は5～4.3cm前後を測る。N018～20は染付の向付、N021・24は染付の碗である。いずれも近代の所産であろう。N025～28は德利の一部であるが、これも明治年間の所産であろう。N036～40は稻荷曲輪出土の染め付け・印判である。N041は土師質土器で口径10.2cmを測る。N043は摺鉢の底部破片である。

### 3 石製品

N044は長径12、短径11、高さ7.5cmを測り、天守曲輪7番石垣の裏栗石中出土の五輪塔の水輪であるが、中心の凹部分が著しく深く、軸受け石として二次利用されたものと考えられる。N045は9番石垣裏栗石中より出土した灯籠の火袋の破片である。N046は天守曲輪7番石垣裏栗石層中出土の六地蔵輪の傘の破片である。N048は天守曲輪9番石垣裏栗石中より出土した上白の破片で、直径30.4、高さ14.5cmを測り、溝は6分画である。N049も上白の破片で、直径23.4、高さ10.4cmを測り天守曲輪7番石垣裏栗石中より出土し、溝は8分画である。N050も同様な破片で、直径28.5、高さ11.3cmを測り、やはり7番石垣裏栗石中からの出土で、溝は8分画である。N052は7番石垣裏栗石中出土の下白の破片で直径32.6、高さ16.7cmを測り、溝は8分画である。N053は直径30、高さ14.2cmを測る下白の破片で溝は4分画である。N051は茶臼の上白の一部で直径19、高さ13cmを測る。溝は4分画である。N047は五輪塔の地輪の破片である。N054・55は天守曲輪7番石垣裏栗石中出土の五輪塔の空風輪で、石材は角閃石ディサイトである。N056は9番石垣裏栗石中出土の五輪塔の地輪で、一辺18.3、高さ13cmを測る。N057も地輪で天守曲輪7番石垣裏栗石中より出土し、一辺16.5、高さ10cmを測る。N058も天守曲輪7番石垣裏栗石中出土の地輪で、一辺17～20、高さ13cmを測る。N059・60は地輪を転用したものである。N061は高さ21cmを測る宝篋印塔の台座で、天守曲輪7番石垣裏栗石中から出土したものである。N062も宝篋印塔の台座で、高さ22cmを測り、天守曲輪7番石垣裏栗石中からの出土である。



第44図 金箔鬼瓦実測図



第45図 陶磁器実測図



29



30



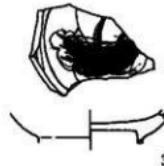
31



32



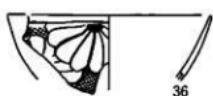
33



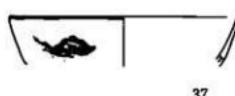
34



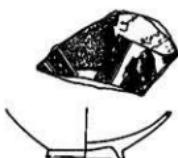
35



36



37



38



39



40



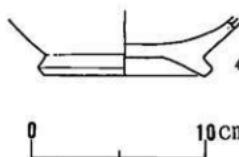
41



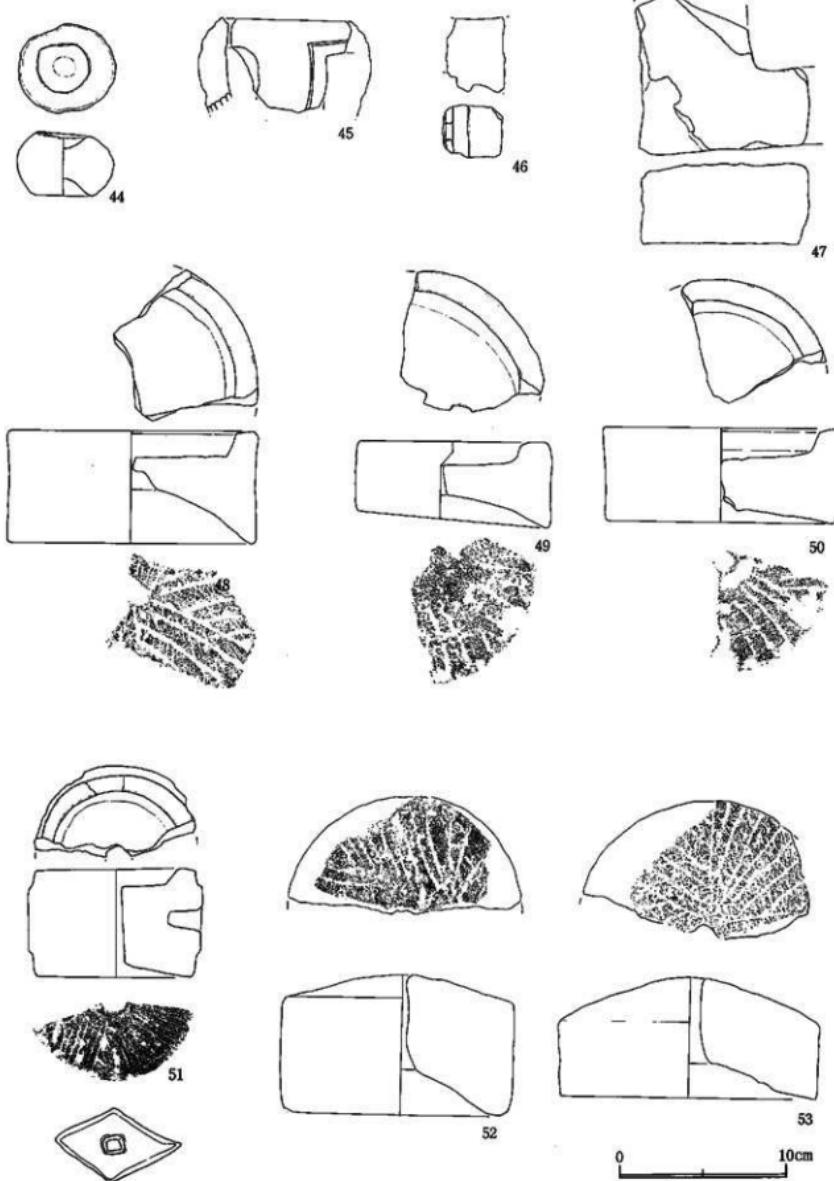
42



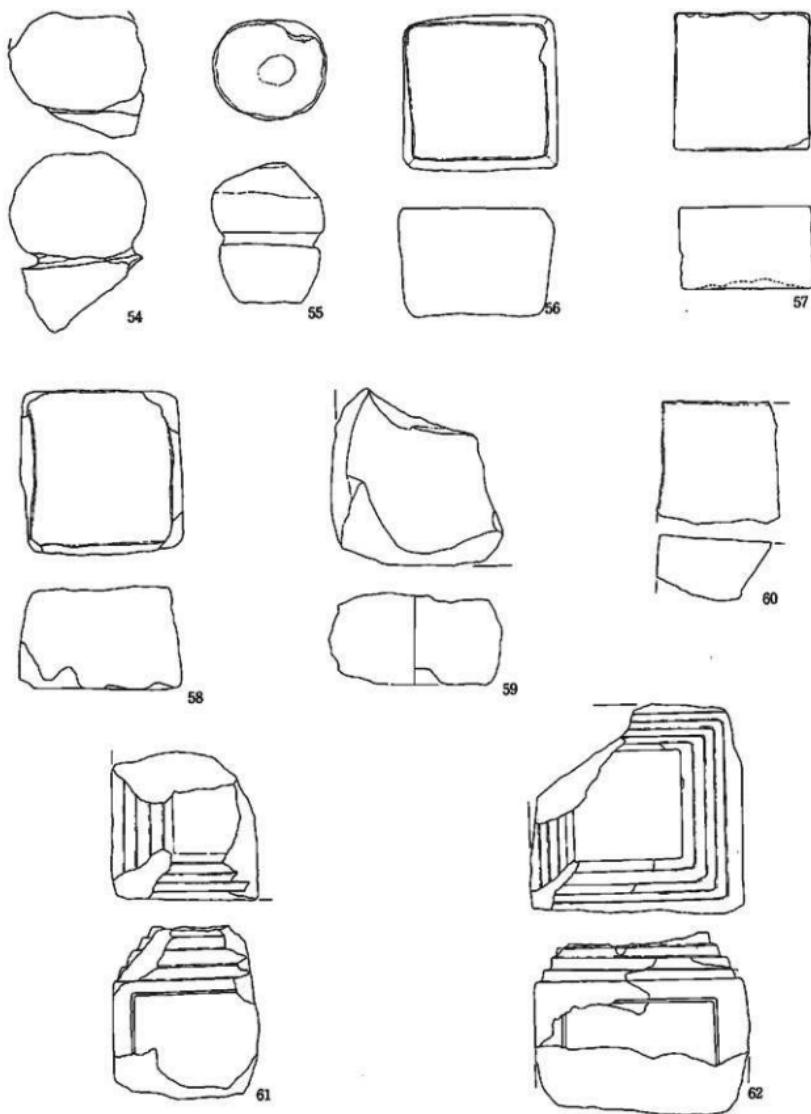
10 cm



第46図 陶磁器実測図



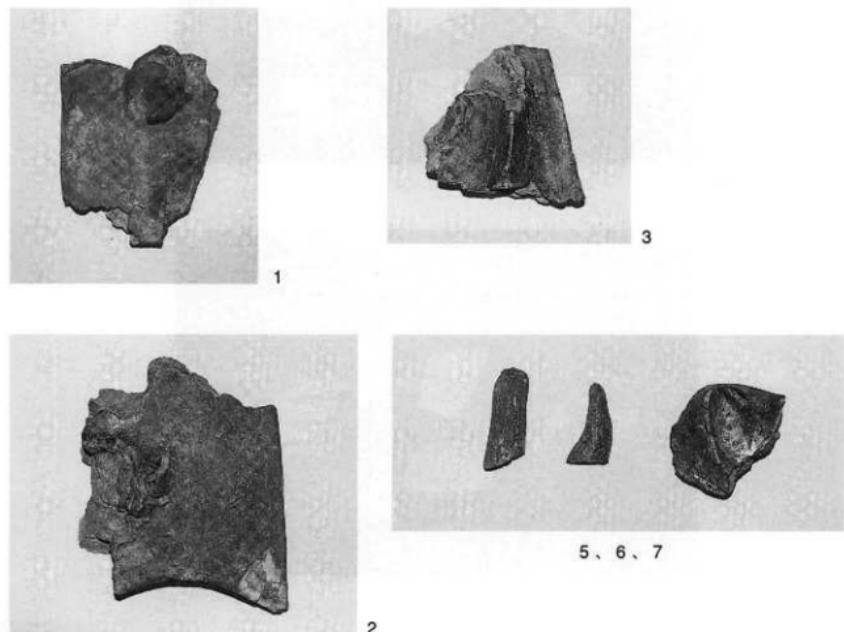
第47図 石造物実測図



第48図 石造物実測図



第49図 陶磁器 (9、10、11、12、13、14、15、16)



第50図 金箔鬼瓦



17、20、21、22、23



29、30、31、32、33、34、35、36、37



38、39、40、42

第51図 陶磁器



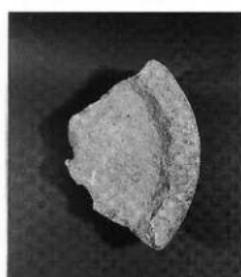
44



51



45



49



52



51



55



57



56



60



61



62

第52図 石造物

## 第6章 石垣調査検討会

### 1 開催までの経過

甲府城跡の石垣修復工事に伴う石垣調査は、本年度で6年目となるが、当初から試行錯誤の連続であった。初年度は、根石の据えられている地盤の検出、裏栗石層の幅や厚さ、裏盛土の厚さなどを確認する作業を中心とし、石材については刻印や墨書きの有無の調査を行った。2年目は、石材の法量についての調査にその重点を移した。しかし、重量や控えの測定は思うようにできなかった。初年度と2年度には地中レーダー探査を行い、地山及び旧地形の復元も試みた。この作業の中で旧谷が確認され、その付近の石垣の破損が目立つことも明らかとなった。3年目は、石材の体積を測定して平均化し、表面積からその重量と控えを推定できる係数を探ってみた。また、計測した石材データの中の控えの大小を、石垣立面図に濃淡で図化を試みた。この作業で、石垣の構造を知ることができると考えたが、これも十分な結果ではなかった。地中レーダーの深度は数mであり、10mを越える深度ではVLF探査方法を採用して、鍛冶曲輪全体で行い盛土下の地形の把握も試みた。4年目以降は、3年目の作業を継続し、データの蓄積を行っている。一方、4年目には本丸の北西で、裏盛土中から南北に平行した4本の石垣が検出され、これの構築目的を明らかにする作業も行う必要が生じた。5年目には、天守曲輪の曲輪面を造構面より下に掘り下げ、同様な石垣を3カ所検出した。本年度も昨年度調査した天守曲輪の西側地中より大規模な地中石垣が検出された。さらに、地中石垣とは別に、石垣と裏盛土の境に裏石垣とでも呼ぶべき石垣が検出された。これらの石垣の検出は、今まで調査の対象を表面に現れている石垣としてきたことが、不十分な対応であったと考えざるを得ず、大きな驚きであった。調査検討委員会での指摘も踏まえ、従来の石垣調査は見直す必要が生じたと考えるようになってきた。全国各地の石垣調査の実態を調査し、その目的や手法をまとめてことで、より効率的な新しい調査方法を見いだすことが急務となつたと判断した。そのため、石垣調査検討会として甲府城跡調査検討委員会と合同で1996年3月22日に開催した。

石垣の修理工事と並行して行われている石垣の調査は、調査現場によって様々である。考古学的な手法以外に、物理探査を並行させている現場もある。調査手法は調査目的によって選択されるものであるため、石垣調査の目的について、共通認識を確認する必要がある。また、既に行っている調査結果によって明らかになった点を出し合い、今後の調査方法を検討する必要もある。各地の調査事例と成果を発表していただき、このような検討を行うことによって、最も効率的な調査方法を確立することを目的として、計画したものである。

### 2 委員会の概要

岩手県盛岡市教育委員会の室野秀文さんには、寛永年間まで築城が進められた近世城郭である盛岡城の石垣修復工事に伴う調査で、石垣の裏栗石を押さえる簡単な石積が盛土との境にあることが確認されたことを発表していただいた。群馬県太田市教育委員会の宮田毅さんには、戦国時代の山城、国史跡太田金山城の石垣の調査で、根石が石垣面より外側に据えられていることと、裏栗石がなく粘質土と小石の突き固めたものが石垣の裏側に存在する戦国時代の石垣について発表していただいた。東京都八王子市教育委員会の新藤康夫さんには、天正18年に落城した国史跡八王子城の整備事業に伴う発掘調査で、高さ3m前後の石垣が3段に積まれていることと裏栗石がなく太田金山城の石垣の裏構造と同様であることを発表していただいた。長野県長野市教育委員会の前島卓さんには、甲府城と同時期に築かれた近世城郭である松代城の整備事業に伴う発掘調査の成果と石垣の特徴について発表していただいた。甲府城では、裏石垣は石垣を積む作業が盛土作業よりも先行した場合に構築されるものであろうこと、また地中石垣は盛土作業の工法の一つか作業範囲の仕切りであろうことを、本丸と天守曲輪の事例を通して発表した。また、整備事業と発掘調査との連携の実態について、また調査検討委員会の必要性も併せて説明した。

調査検討委員会の委員から多くの質問が出され、活発な議論が行われた。しかし、具体的な調査方法をまとめることはできなかった。当日の議事録は第2章第2節に掲載してある。

調査以下にその検討会の資料を甲府城のみ掲載するが、当日の資料を若干修正したものである。

### 3 甲府城における整備事業と発掘調査の流れ

昭和42年 甲府城跡総合学術調査実施－「甲府城総合調査報告書」刊行

昭和42年 県指定史跡

平成元年 舞鶴城公園整備検討委員会発足－整備事業・発掘調査着手

甲府城跡整備事業では、まず、舞鶴城公園整備検討委員会が昭和62年～平成元年まで設置され、石垣の解体修理事業として、整備方針の討を重ねた。この上で、平成2年から10年計画で、山梨県土木部が整備主体として事業に着手した。もとより、整備対策である甲府城は、それ以前の昭和43年に県指定史跡をうけていることから、整備計画の段階より、文化財修理という観点に立ち、慎重な協議が繰り返され行われた。

整備事業に伴う発掘調査は、山梨県埋蔵文化財センターが、平成2年から整備事業に伴う調査に入り、現在6年目を終わろうとしている。

整備工事と調査は並行して行われるため、双方で円滑に事業を進ませるべく調査の場として、隔週1回の目安で定期例の会議を開催している。この構成者は、事業主体である県土木部、設計管理者、埋蔵文化財センター、施工業者である。①工事の進捗状況の把握、②施工上の問題点の解決、③施工と調査の調整などである。②③を

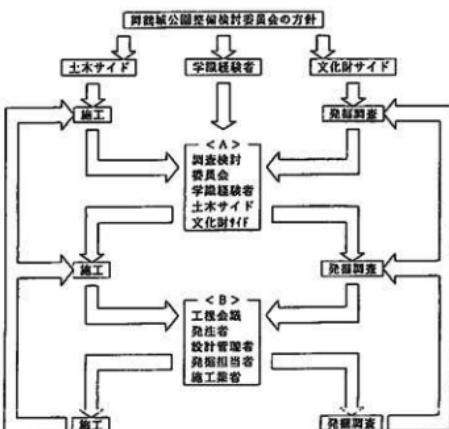
テーマとする議論が多いわけであるが、古絵図や調査結果を基本姿勢において、可能な限り施工に反映させている。③の場合では、施工業者が文化財修理における整備事業への理解を仰いで進められたことは、大きな後ろ支えとなっている。

調査方法に対しても、数度にわたる議論の積み重ねを経て行われているため、文化財修理という共通認識に立った建設的な議論の展開により、円滑な工事日程が組まれて現在に至っている。

#### 4 備事業と発掘調査の調整

石垣改修工事箇所で発掘調査の必要性が生じた場合は、工程会議の場において、施工と調査の調整が行われる。次に示す資料は、天守曲輪石垣の改修工事に先立ち、調査側が予測できる調査項目と期間を提示し、また調査項目をA～Gとし、その内側、期間とともにほぼ予定通りに行ったものである。

これまでの天守曲輪の調査では、石垣裏構造に関わる地中石垣が検出されている。この石垣は、全国的にみても類例がなく貴重な資料といえる。また、天守曲輪の石垣工事では、それまで経験のないジオテキスタイル工法を導入した工事がおこなわれるため、調査とともに慎重な対応が求められた。



第53図

#### 【A】調査検討委員会

県内外の有識者が構成とする。事務局は文化財サイドが行う。年2～3回これを実施する。会議は、その年度の整備事業・発掘調査を議題として必要に応じて土木サイドから施工についての提案がされ検討する。

#### 【B】工程会議

発注者・設計管理者・発掘担当者・施工業者で構成する。施工工程との調整機関であり、隔週でこれを実施する。また、発掘調査で得た議事内容は、られたデータを提供し、施工時に活用するための検討が行われる。

## 調査項目

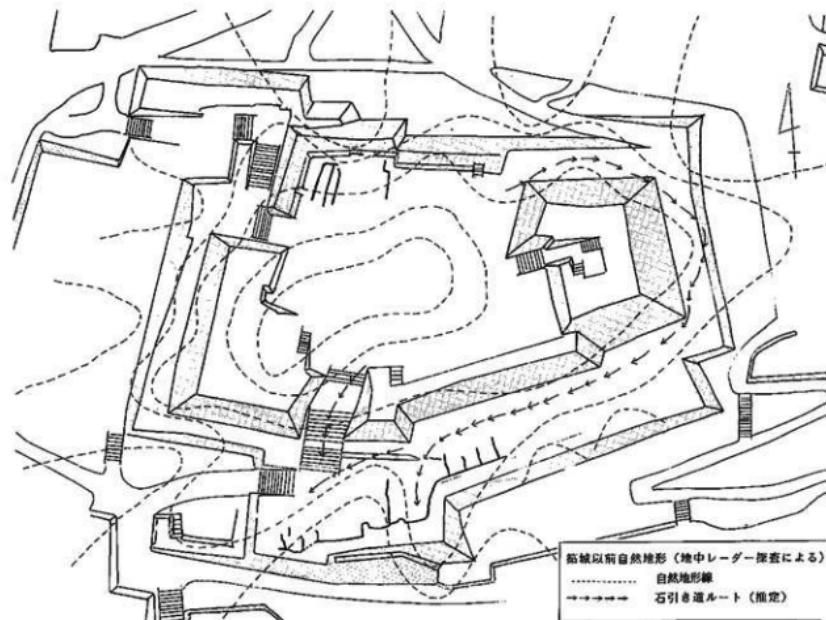
### 調査名 調査内容

- A. 天端調査 売店跡地で武具庫の礎石を検出  
絵図に残る井戸の検出
- B. 中断調査① No. 7 石垣の間知石垣天端まで解体後、天端調査で把握仕切れなかった井戸とNo. 5 地中石垣の全容を検出。今まで確認されなかった地中石垣検出の可能性あり。
- C. 中断調査② No. 7 石垣の間知石垣解体後、その裏の旧石垣を実測のち図面化（株バスコへ委託）
- D. 中断調査③ No. 7 石垣の間知石垣天端より 2 ~ 3 m 解体後、地中石垣に伴う版築を土層で確認、後実測図面化。またNo. 5 石垣とNo. 6 地中石垣を断面から確認。実測のち図面化。今まで確認されなかった地中石垣検出の可能性あり。
- E. 中断調査④ 根石を残して全面石垣解体後、裏盛土調査。土層図を作成後図面化（業者依頼）
- F. 根石調査 No. 5 ~ 10 石垣の根石を検出後、実測のち図面化（業者に委託）
- G. 石材調査 No. 5 ~ 10 石垣の番付済み石材を対象として、法量を計測
- H. その他 上記以外の調査は現状で推測不可能の遺構が確認された場合、必要に応じて実施。

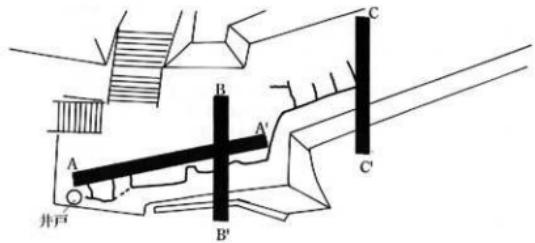
## 調査期間

- |          |       |          |       |
|----------|-------|----------|-------|
| A. 天端調査  | 2週間   | E. 中断調査④ | 2~3週間 |
| B. 中断調査① | 2~4週間 | F. 根石調査  | 2~3週間 |
| C. 中断調査② | 1~2週間 | G. 石材調査  | 解体期間  |
| D. 中断調査③ | 2~4週間 | H. その他   | 未定    |

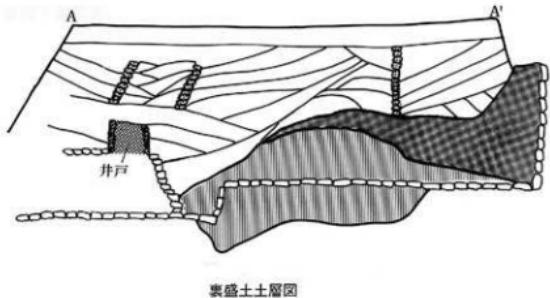
※調査期間は、現場の危険性・遺構の検出状況・天候などの状況により、短縮、延長もあった。



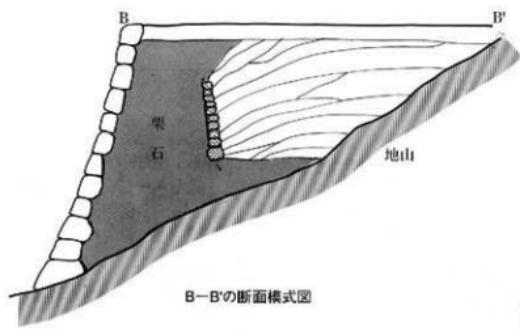
第54図



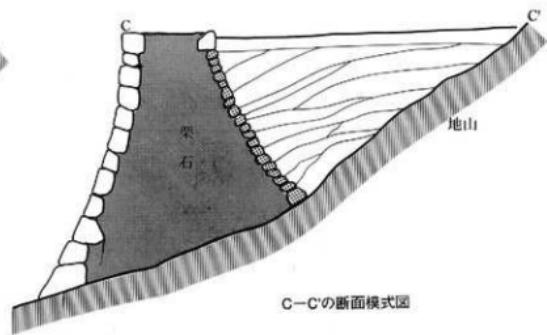
裏石垣の配置図



裏盛土層図

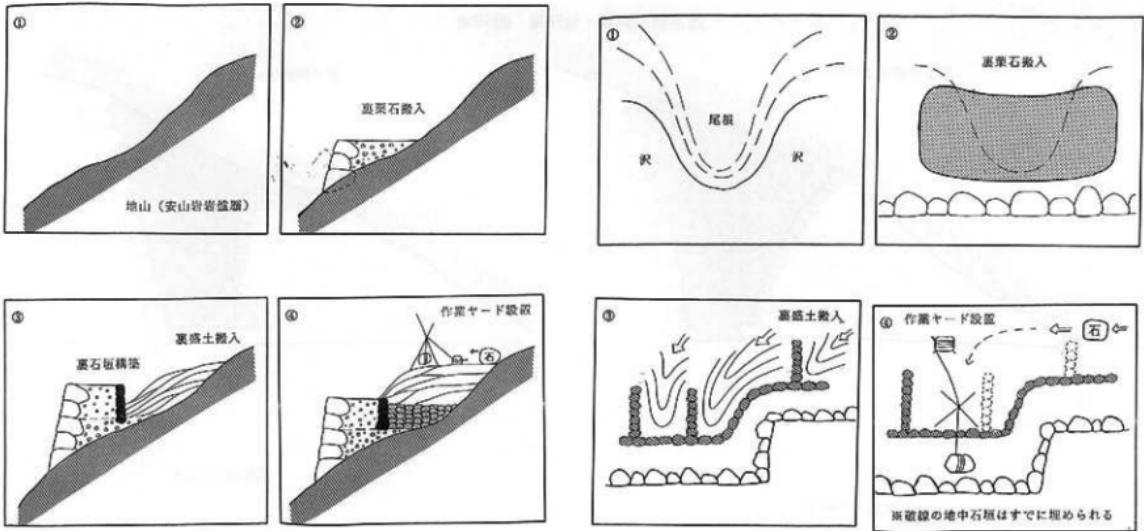


B-B'の断面模式図



C-C'の断面模式図

第55図 裏石垣・裏盛土模式図



<①～④の流れ>

- ①施工前
- ②石積み（A工程）と同時に裏盛土石搬入（B工程）を一定の高さまで水平に施工
- ③A・B工程に加え、裏石垣構築（C工程）、盛土搬入（D工程）、地中石垣構築（E工程）を同時に施工、このA～E工程を繰り返し行なう。ただし、この施工は表面石垣が下から施工できなくなった段階までである。
- ④A～E工程が同時施工できなくなった段階でD・E工程を先行させ、「ふたまた・みつまた・かくらさん」設置のための作業ヤードを確保し、上部からA・B工程を施工する。

第56図 裏石垣・裏盛土模式図

## 『山梨県指定史跡甲府城跡VI』概要

フリガナ	ヤマナシケンシティセキコウフジョウアトVI
書名	山梨県指定史跡甲府城跡VI
執筆者	八巻與志夫・柏木まつ江
発行者	山梨県教育委員会・山梨県土木部
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
住所・電話	東八代郡中道町下曾根923 ☎0552-66-3016
印刷所	山梨県甲府市丸の内1丁目14-6 株式会社ヨネヤ
印刷・発行日	1996年3月25日・1996年3月29日
所在地	甲府市丸の内1丁目5番地内
25000分の1 地図名	甲府南部 北緯 35° 39' 40" 東経 138° 34' 27" 標高 304.220m
概要	主な時代 戦国時代～江戸時代 主な遺構 近世初頭の城郭石垣 主な遺物 近世瓦・戦国末の石造物 特殊遺物 金箔瓦、石造物 調査期間 1995年4月～1996年3月

## 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第140集



